

新潟開港150周年記念事業



水と土の 芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018

実施計画(案)

平成30年7月6日
水と土の芸術祭2018実行委員会



【実施計画（案）改訂履歴】

初稿(2017/11/15)からの改訂

改定日	頁	変更内容
2017/11/30	10～18	・「アートプロジェクト」内、「作家及び作品数」、「作品一覧」を一部修正
2018/2/2	3	・「開催概要」内、「後援」を一部修正
	6	・「市民プロジェクト」内、「募集スケジュール」を一部修正
	7	・「こどもプロジェクト」内、「実施内容」を一部修正
	9～18	・「アートプロジェクト」内、「会場」、「作家及び作品数」、「作品一覧」を一部修正
	23	・「にいがた JIMAN」内、「伝統芸能等のイベント」、「まちあるき」の内容を追記
	28～29	・「輸送・交通」内、「実施概要」の内容を追記
	32	・「広報」内、「広報スケジュール」を一部修正
	34	・「パスポート・単館チケットの販売」、「ガイドブックの販売」を追記
	39	・「スケジュール」を一部修正
	40	・「収支計画」を一部修正
2018/7/6	3～4	・「開催概要」内、「主催」及び「後援」、「会場」を一部修正
	5～13	・「市民プロジェクト」内、応募件数の修正、「採択額」及び「実施予定プロジェクト一覧」を追記
	14～16	・「こどもプロジェクト」内、「実施内容」を一部修正
	17～34	・「アートプロジェクト」内、「会場」及び「作家及び作品数」、「作品一覧」のナンバリングを修正
	35～38	・「シンポジウム」内、「シンポジウム」及び「トークイベント」を一部修正
	39～42	・「にいがた JIMAN」内、内容を一部修正
	43	・「その他主催事業」内、スタンプラリーの概要を追記
	44～46	・「連携事業」内、ガイドブックの提示による特典やサービスの協力施設を追記
	48～49	・「空間構成」内、「地域拠点プロジェクト」の実施個所及びインフォメーション設置箇所の追記
	50～51	・「輸送・交通」内、「作品鑑賞バスツアー」の内容を追記
	56	・「誘客活動」内、芸術祭の特別宿泊プランの作成施設一覧を追記
	57～58	・「観覧料等」内、「発売日・方法」の修正及び「パスポート特典」の追記
	58	・「ガイドブックの販売」内、ガイドブックの特典を追加

目次

I	開催趣旨	1
II	開催概要	3
III	事業内容	5
1	市民プロジェクト	5
2	こどもプロジェクト	14
3	アートプロジェクト	17
4	シンポジウム	35
5	にいがたJIMAN	39
6	その他主催事業	43
7	連携事業	44
8	事業全体像	47
IV	空間構成と輸送・交通	48
V	広報・誘客	53
VI	観覧料等	57
VII	実施・運営体制	59
VIII	スケジュール	63
IX	収支計画	64

I 開催趣旨

「水と土の芸術祭」は2009年にスタートしました。その後、本芸術祭は3年に1回のトリエンナーレ方式で開催され、2018年にその第4回展を迎えます。こうした隔年性の展覧会は今日、日本はもとより世界各地で見られますが、新潟市が開催する本展覧会は、「水」と「土」という地球誕生以来の根源的物質であり生命の誕生をうながし育んできた「四元素」の中心的物質を展覧会の表題に掲げています。

このことは新潟の地勢の成り立ちに深く関係しています。ユーラシア大陸から離れ、南北に弓形に連なる日本列島は、当初平坦な土地でした。しかし地球をおおうプレートの活動による陸の隆起や火山活動によって山脈が生まれ、四季折々の季節感や美しさを携えた列島へと変貌してきました。新潟の地勢は、そうした長い地球の歴史の中でもまだ山脈が生まれる以前の産声を上げたばかりの地勢を表しているようにも感じられます。

そこは太古以来、まさに「水」と「土」がせめぎ合う境界領域でもありました。本州の中心部から発する信濃川、阿賀野川という2つの大河が日本海に面する河口で合流し、流域に肥沃な平野を形成するとともに、日本海からの強風によって生まれた70キロメートルにもおよぶ砂丘列が越後平野を盾のように守っています。砂丘列、多くの潟や低湿地帯、高低差のある川、川の流れをコントロールする分水や堰、これらは新潟の自然のダイナミズムと人間の英知や労苦を記憶遺産のように現在に伝えています。

自然やそれと共存する多くの対策の歴史ばかりではありません。交易や文化の面でも新潟は多様な歴史を積み重ねてきました。北前船などによる江戸期からの海運の拠点として発展し、明治初期に開港5港の1つとして開設された新潟港は、2019年に開港150周年を迎えます。良港をもつことによる「みなとまち」新潟は、人や文物の交流をうながし、郷土の繁栄にも大きく寄与してまいりました。一地域であることを超えて行われるこうした交易は、自然のスケール感とともに文学にも関係しているように思えます。松尾芭蕉の俳句、北原白秋の「砂山」、あるいは坂口安吾の砂丘にあって思索した小説など、新潟で詠まれ書かれた俳句や童謡、文学には遥か彼方を遠望し、そこに思いを馳せるようなスケールの大きさを感じさせます。

新潟はひと口に豊かです。米をはじめとする農作物や魚介類など、その多様性には驚かされます。しかし、その豊かさを時として私たちは忘れてしまいがちなのではないのでしょうか。かつて腰まで浸かって刈り取られていた、決しておいしいとは言えなかったという米作を全国屈指のおいしい米どころに変えていったのは、治水をはじめとする先人たちのたゆまぬ労苦や努力によって築かれたものです。また労働だけではなく、ここでは食文化をはじめ共同体意識を高める祭事や過酷な労働を癒す芸能なども生み出されました。

本芸術祭は「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える～」という基本理念に基づき、「水」や「土」に象徴される特有の地勢によって生み出され育まれた新潟の歴史や生活、文化などの独自性を、現代のアートや市民が自発的に取り組む様々なプロジェクトなどを通じて着目し認識してもらうきっかけになることを目的の1つにしています。それは新潟の独自性に気づき、市民にそれが根づくことで郷土に対する愛着や新潟の未来を創造していく新しいパワーやエネルギーを生み出すことに通じていくでしょう。

今回の芸術祭は、先述の基本理念に立ちつつ「メガ・ブリッジ—つなぐ新潟、日本に世界に—」というコンセプトを設け、3つのブリッジ(架け橋)を描きます。

1つ目のブリッジは、新潟と日本の各地や世界を結ぶ架け橋です。本芸術祭では「水」と「土」という毎日欠かすことのできない日常的であり、かつ生命を育む根源的物質がテーマになっています。それは新潟で行われる芸術祭であるにもかかわらず、広く日本や世界が今日抱えている地球規模の問題にリンクしています。また新潟は2019年に開港150周年、翌年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、日本各地のみならず、北東アジアの文化交流拠点都市として、多くの国や地域と積極的に文化交流を結ぶ環境が備わっています。本芸術祭はこうした国際的な交流を推進する絶好の機会ともなるでしょう。

2つ目のブリッジは、市民を結ぶ架け橋です。ともすれば希薄になりがちな現代の人と人とのつながりがこうしたプロジェクトをきっかけに深まり、これまでになかった新しい出会いや場を生み、それによって人々の関係は活性化し新鮮でパワフルなヴィジョンを生み出すことに発展していく期待が生まれます。アートという、時に非日常的な祝祭性は、都市に新しい生命の息吹を吹き込むことにも通じるでしょう。

3つ目のブリッジは、アートと自然、都市、社会などのすべての対象に張り渡される架け橋です。これらは今日の先端的アートの主流をなしています。それらの先端的なアートに特徴的なことは単に作品を鑑賞するだけでなく、作品に接し、あるいは作品を通じて身体的、感性的な経験を積むことで新しい感性や視点を育むという表現性をもっていることです。また、こうした体験、協働、あるいはワークショップ型の表現は、今日もっともクローズアップされているテーマであり、従来のアートの存在理由に課題を投げかけている「アール・ブリュット」にも深く関係しています。障がいのある方々の表現は、時に健常者の表現を凌ぐ魅力ある作品を生み出し、従来の芸術の垣根を超えた表現世界を切り開く可能性を示唆しています。それは芸術個々の表現ジャンルよりももっとベーシックな社会における人間存在の証というフィールドを改めて認識させる重要な観点に進展していくとも言い換えられるでしょう。

新潟市の自然や地勢的特徴に育まれた日本の他地域や世界のどこにもない歴史や文化。本芸術祭は、その魅力を国の内外で活躍するアーティストと、その制作、発表に協働する多くの市民、地域住民の自発的、積極的な活動をはじめとする多彩なアプローチで引き出し、新潟市のこれまでになかった新しい魅力を含めてアピールしていきたいと思えます。

水と土の芸術祭 2018 総合ディレクター 谷 新

II 開催概要

1 名称

水と土の芸術祭 2018 (みずとつちのげいじゅつさい にーぜろいちはち)

2 基本理念

私たちはどこから来て、どこへ行くのか

～ 新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える ～

3 目的

- 「水と土の文化創造都市」の推進
 - ・シビックプライド*1の醸成と市民力の更なる発展
 - ・新潟らしい魅力の発信(食・農・おどり・海・川・潟・砂丘・港 など)
 - ・産業や教育・福祉など他分野への創造性の浸透・波及
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新潟市の文化プログラム*2の主要事業として、世界へ新潟市をアピールするとともに、北東アジア文化交流拠点都市につなげる。
- 新潟開港 150 周年の主要事業に位置付け、「みなとまち」としての魅力向上につなげる。

4 主催

水と土の芸術祭 2018 実行委員会

- 実行委員長 篠田 昭(新潟市長)
- 副実行委員長 平岩 史行(水と土の芸術祭市民サポーターズ代表)
今井 長司(新潟県農業協同組合中央会会長)
福田 勝之(新潟商工会議所会頭)
- 参与 大熊 孝(新潟大学名誉教授/潟環境研究所所長)
- アドバイザー 小川 弘幸(イベントプロデューサー/文化現場代表)
- 総合ディレクター 谷 新(美術評論家)
- アート・ディレクター 塩田 純一(前新潟市美術館館長)
- 市民プロジェクト・ディレクター/こどもプロジェクト・ディレクター
藤 浩志(秋田公立美術大学副学長/美術家)
- マネージャー 杉浦 幹男(公益財団法人アーツカウンシル新潟プログラムディレクター)
- チーフキュレーター 長縄 宣(元発電所美術館学芸員)
- 公式カメラマン 中村 脩(写真家/映像作家)

5 後援

総務省、経済産業省、駐新潟大韓民国総領事館、在新潟ロシア連邦総領事館、
中華人民共和国駐新潟総領事館

6 会期

2018年(平成30年)7月14日(土)～10月8日(月・祝) 計87日間

*1 「シビックプライド」→市民の誇り。

*2 「文化プログラム」→オリンピック憲章では、開催地に複数の文化イベントの実施を義務付けており、これを「オリンピック文化プログラム」と呼ぶ。東京 2020 組織委員会及び国では、リオ 2016 閉幕から東京 2020 閉幕までの4年間、全国各地で様々な文化イベントが行われるよう進めている。

7 会 場

市内全域

- メイン会場:「万代島多目的広場(大かま・屋外広場)」
開館時間 午前 10 時 00 分～午後 6 時 00 分
休 館 日 毎週水曜日(8 月 15 日を除く)

- サテライト会場:「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」※旧二葉中学校
開館時間 午前 10 時 00 分～午後 6 時 00 分
休 館 日 毎週水曜日(8 月 15 日を除く)

- その他、市内全域で各プロジェクトを展開する。

8 事 業

- 市民プロジェクト(市民自らが企画・運営するイベントやプロジェクト等)
- こどもプロジェクト(次代を担うこども達の創造性を育む事業)
- アートプロジェクト(アーティストを招へいするなどし、新潟の地勢的な成り立ちや暮らし文化に深く根差した芸術性の高い作品を制作・展示)
- シンポジウム(芸術祭の取り組みと連動したトークイベント等)
- にいがた JIMAN(「食」や「農」・「伝統芸能」など、新潟市の誇る豊かな文化を広く PR)

9 予 算

270,000,000 円

Ⅲ 事業内容

1 市民プロジェクト

市民自らが企画・運営するもので、イベントのみならず、まちづくりや地域活性化に繋がるプロジェクトを支援する。これにより、市民や地域が主体となって関わることができる、参加性の高い芸術祭とする。

- (1) 対象事業(下記のア～エのいずれにも該当するもの)
 - ア 2018年7月14日(土)～2018年10月8日(月・祝)に、新潟市内で開催し、地域住民が参画するイベント等で、下記の(a)から(e)のいずれかに該当するもの。ただし、この期間より前に実施するもので、特に芸術祭開催の機運醸成等に繋がると認められる場合は、この限りではない。
 - (a) 「水と土」の歴史・文化などを紹介し、「水と土の新潟市」の文化振興に資するもの
 - (b) 「水と土」に関わるアートを活用して地域の賑わいを創出するもの
 - (c) 新潟らしい地域資源(「潟」、「食」、「おどり」等)の魅力を発信するもの
 - (d) 「水と土」に関するテーマで、東日本大震災をはじめとする激甚災害の被災者・避難者等を支援するもの(新潟市外で行うものも可)
 - (e) 区内の市民プロジェクトの広報・連携の核となる拠点を設け、市民プロジェクト間やアートプロジェクトとの連携を図る体制を整え、アートを活用して地域の課題に取り組むもの【以下、(e)を地域拠点プロジェクトと呼ぶ】
 - イ 採択決定を受け、開催日時、場所、内容を2018年4月2日(月)までに確定できるものであること。
 - ウ 不特定多数の集客、参加が見込まれるもので、非営利であること。
(特定の住民の方のみが参加するもの、または販売等の収益事業を主目的としたものは不可)
 - エ 政治、宗教などに関する活動や、公の秩序または善良の風俗に反するものでないこと。
- (2) 応募件数
94件
- (3) 採択件数
85件(うち、地域拠点プロジェクトは12件)
- (4) 実施予定件数
84件(うち、地域拠点プロジェクトは12件)
- (5) 採択額
37,926,000円
事業にかかる共催負担金対象経費の5分の4以内で、1事業につき上限50万円
※ただし、地域拠点プロジェクトに該当する事業については、負担率及び上限額を超えて採択する場合あり。
- (6) 実施予定地域
市内全域(東日本大震災をはじめとする激甚災害の被災者・避難者等を支援するものについては、この限りではない)

(7) 実施主体

市民グループ、地域、団体、学校、事業所・企業 など

(8) 採択方法

一般公募により募集し、実行委員会で採択する。

(9) 募集スケジュール

日程	内容
2017年10月6日(金)	募集開始
12月25日(月)	募集締切
2018年2月4日(日) 12月28日(木)～	審査
2月15日(金)	採択通知発送

(10) 採択要件

ア 芸術祭の趣旨を理解し、独創性のある魅力的なイベントなどであるもの

イ 実施主体が自主的に企画立案し、実施するもの(ただし、地域拠点プロジェクトについて作家の斡旋はこの限りではない)

ウ 芸術祭に関する情報発信や、地域の魅力の再発見、再構築及びその発信に寄与するもの

(11) 負担金対象経費等

事業に直接要するもので、必要最低限の経費を対象とする。ただし次の経費を除く。

ア 事務所等を維持管理するための経費

イ 食糧費(健康管理上、必要なものなど実行委員会が認めるものは除く)

ウ 実施団体の構成員に対する謝礼金やそれに準じるもの

エ 単価3万円以上の物品(当該物品がないと事業を実施できない場合は応相談)

オ その他、事業に直接関係ないと実行委員会が認める経費

(12) 実施予定プロジェクト一覧(◎は、地域拠点プロジェクト)

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
【北区】				
◎北1	7/16～10/8 月・火曜除く	コミュニティスペース とよさ かベースキャンプ	地域拠点プロジェクト 友政麻理子 「よろつとなすベースキャンプ」	とよさかベースキャンプ
北2	7/14日～ 10月初旬	JR豊栄駅南口 アーケ ード区間周辺	★にいがた国際似顔絵フェスティバル 2018★	White New Line T(ホワイトニュー ライン T)
北3	8/18～9/2	トラットリア ノラ・クチーナ、 ひなたぼっこほか	北区史がトランスフォーム 2018	ハアフーフ

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
北4	7/22～8/26	北区郷土博物館、とよさかベースキャンプほか	北区水と土の歴史をたどるプロジェクト	とよさか歴史地形探検会
北5	7/14	北区文化会館	あしたの星☆2	NPO 法人アートキャンプ新潟
北6	7/28	ビュー福島潟6F展望ホール	潟の音風景—福島潟夕方コンサート	潟の音風景 実行委員会
北7	9月～10月	新潟市北区内及び周辺地域の協力飲食店ほか	にいがた北オリジナルメニュープロジェクト「めっちゃんこ鍋 2018」	にいがた北オリジナルメニュープロジェクト実行委員会
【東区】				
◎東1	8/1～ 9/28の平日 8/13～16除く	(株)博進堂本社・工場	知ることから始めよう「写真で綴る 地域の歩みと産業の関わり」	株式会社 博進堂
東2	7/15	牡丹山諏訪神社 ※雨天時は牡丹山小学校体育館	牡丹山諏訪神社古墳歴史演劇公演と橋本教授による牡丹山諏訪神社古墳講座	東区市民劇団 座・未来
【中央区】				
◎中1	7/1～10/7 月・木曜除く	なじらね沼垂『しんこ屋』	ニュー沼垂ラジオ 2018 水と土と沼垂	なじらね沼垂
◎中2	7/14～9/23	礎窯 旧礎保育園	礎窯 2018 ONE MORE CUP STORY	礎窯サポーターズ
◎中3	7/14～10/8	りゅーとぴあ、八十八本町アトリエ	妖怪祭り2018 in 新潟島	手部と妖怪祭り実行委員会
中4	7/14～10/8	新潟みなとトンネル歩道、ゆいぽーと	Kid'sの陶板アート	郷土の文化に親しむ会
中5	7/14～10/8	天寿園駐車場側清五郎潟ほか	清五郎さん - The Fermented Woman -	清五郎さん - The Fermented Woman - プロジェクト
中6	7/14～9/2	考古堂書店、金巻屋、よろっ to ローサほか	ウラニイガタ ～新潟島妖怪めぐり～	新潟妖怪研究所

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
中 7	9/15～9/30	いくとびあ食花 食育・花育センター	伝統文化を稲穂で表現 にいがたア グリクラフト	にいがたアグリクラフト
中 8	9/14・9/16	いくとびあ食花 花とみどり の展示館	潟ファンタジー2018 IN 新潟 & 宮城	Boku 国際交流音楽倶楽部
中 9	7/14～10/8	新潟駅西側連絡通路	ホームタウン・オレンジプロジェクト ～ チカラをひとつにして作る新潟の景色 2018～	特定非営利活動法人アライアン ス2002
中 10	7/28～9/29	清五郎一本松付近、鳥 屋野潟ほか	清五郎開拓八人衆プロジェクト ～ 彼らはどこから来たのか、なぜ新潟に やってきたのか～	清五郎倶楽部
中 11	8/1～8/30	下本町周辺	【お化け屋敷】恐怖のえんとつ村「屍」	創るつながるプロジェクト
中 12	7/14 ～ 10/8 の土日祝日	片桐山吉祥院	吉祥院アートプロジェクト	吉祥院アートプロジェクト実行委 員会
中 13	9/16	新潟市中央区早川堀エ リア他、下町全域	早川堀キャンドルナイトみずつちPRプ ロジェクト	早川堀キャンドルナイト実行委 員会
中 14	7/14～10/8	新潟市中央区早川堀エ リア他、下町全域	早川堀・みなもの美術館	みなも美術館実行委員会
中 15	7/14～10/8	新潟市中央区早川堀エ リア他、下町全域	レッツ相撲ミュージック	下町ウエルカムフラワー for 2020 実行委員会
中 16	9/29・30	あけぼの公園	あけぼの公園土俵祭り 2018	あけぼの公園土俵祭り 2018 実 行委員会
中 17	9/29・30	こども創造センター	ちぎってつくろう！これ、ななんだ？ 楽 描(らくがき)ワークショップ	ジョイフェス
中 18	10/5～10/7	静浜亭	第 4 回かもめ企画 ーみずぎわだつ ーエンゲキプロジェクト『セチュアンの善 人』	かもめ企画
中 19	5/13・6/10・ 7/8・8/12・ 9/9 ほか	鳥屋野潟公園(ユスリカ の森、湖上)ほか	とやの潟・いけばなワークショップ ～ 今ある自然を共に見つめなおす取り 組み～	クールジャパン道場華道部

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
中 20	7/6~7/8	北陸ガスギャラリー、古町通 7 番町オーバーアーケード周辺	2018 鯛車サミット	にいがたアートサーカス
中 21	7/14 ~ 10/8 の土日祝日※ 不定期開催	T-Base、天明会館(集会場)、天明中央公園	ものづくりとルーツをたどる時間旅行	T-Base-Life
中 22	8/18・19	新潟古町えんとつシアター	踊りに溢れる1日「24h まちなかダンスフェスティバル」(仮)	創るつながるプロジェクト
中 23	10/6	瑞光寺	新潟寺町 寺宵 10 周年記念演奏会	新潟寺町寺宵 10 周年実行委員会
中 24	7/13~8/11	沼垂テラス	「Voyages Oribiculaires 一遍在する旅プロジェクト」	Voyages Oribiculaires 一遍在する旅プロジェクト
中 25	7/14~10/8	市内全域、NEXT21 1 階 アトリウム	亀田縞えぶろん隊プロジェクト	亀田縞えぶろん隊プロジェクト
中 26	9/29~10/8	BOOKS f3	「新潟・福島・ハワイ~写真でつながる150年」岩根愛写真展+トーク	N フォト・プロジェクト
中 27	7/21・9/29	新潟市文化財 旧小澤家住宅	湊下町 瞽女宿 ~伝承の語りと新潟の妖怪を唄う~	湊下町瞽女唄実行委員会
中 28	8/11~8/16 8/18~9/24	丸山純子とつむぐプロジェクト会場	丸山純子とつむぐ「つむぐ」の位置移動プロジェクト	taniya
中 29	9 月祝日予定	朝日湯、総合福祉会館	にいがた銭湯ものがたり	有限会社ナマラエンターテイメント
中 30	7/21・7/28・ 8/1~9/7	新潟大学旭町学術資料展示館	異人池復元プロジェクト	国立大学法人 新潟大学
中 31	7/14~10/8	榎谷小路	MoNA(The Museum of Niigata Art) まちごと美術館第2弾!	株式会社パウハウス
【江南区】				
◎江 1	7/14~10/8	えんではよごし、横越地区全域	よごしたからもの創造発信事業	特定非営利活動法人えんでは

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
江 2	9/9	北方文化博物館	第 10 回でんでん祭り ～田んぼで生まれた文化を後世に伝えるプロジェクト～	北方文化博物館
江 3	7/14 ～ 10/8 ※8 月は休館	杜の蔵	旧米蔵を活用したアート展示と芸術祭「i」ポイント	杜の蔵で食とアートにふれる会
江 4	8 月上旬～8 月下旬	亀田駅、亀田排水路公園、亀田本町商店街	わく灯籠で夕涼み	亀田商工会議所青年部
江 5	7/15～9/22	酒屋町商店街	両川歴史路地めぐり	みらい塾はじけ豆デザイン倶楽部
【秋葉区】				
◎秋 1	7/14～10/8	町屋ギャラリー 薩摩屋、秋葉区全域	水と油の芸術祭(仮)	小須戸コミュニティ協議会
◎秋 2	7/14～10/8	秋葉硝子、堀出神社境内及び周辺の商店街	硝子の里復活「かつて新津はガラスの一大産地でした」	秋葉硝子
秋 3	7/14～10/8	小須戸本町通り周辺の町屋や店舗など	小須戸 ART プロジェクト 2018	薩摩屋企画委員会
秋 4	7/14～10/8	小須戸商店街の町屋、店舗、住宅等	KOSUDO TEXTILE WINDOWS 2018 —まちをしつらえる、いろどりテキスタイル—	KOSUDO TEXTILE WINDOWS 2018 実行委員会
【南区】				
◎南 1	7/14～10/8 平日除く	ためきの茶の間、狸の婿入り行列会場	狸の婿入り行列プロデュース	臼井地区コミュニティ協議会
◎南 2	7/14～10/8 月・水・金曜除く	天昌堂	天昌堂プロジェクト 2018	みなみらいプロジェクト
南 3	6/9・7/14 9/7～9/30 10/1～10/8	天昌堂、白根学習館、新潟市新津美術館	フォトウォークプロジェクト 白根	フォトウォークプロジェクト白根実行委員会
南 4	8/7	新潟市南区、白根地区	水の記憶新聞づくり	特定非営利活動法人まちづくり学校

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
南 5	7/14~10/8	月潟商店街	月潟アートプロジェクト 2018	月潟アートプロジェクト実行委員会
南 6	7/14~10/8	曾我平澤記念館	笹川邸から風景異化する	味方アートプロジェクト実行委員会
南 7	7/14~10/8	庄瀬地域生活センター	しよげ芸術大学	庄瀬コミュニティ協議会
南 8	7/14~10/8	新飯田地域生活センター	新飯田こどもファクトリー	ボランティアサークルふおうはあと
【西区】				
◎西 1	7/14~10/7 祝日除く	新川の水路橋付近、内野まちづくりセンター	2018 内野新川ほたる&写真展・アート拠点化	夢アートうちの
西 2	9/17~9/28・ 10/1~10/8	新潟市内野、旧画房礫、吉田稲荷神社	アーティスト・イン・レジデンス 2018 UCHINO	国立大学法人 新潟大学
西 3	7/21~10/8	佐潟水鳥・湿地センター、新潟国際情報大学	新潟砂丘遊々ウォーキング -歩く楽しさ満載！新潟砂丘を満喫！-	新潟砂丘遊々会
西 4	7/22~9/9	新川周辺ほか	新川開削 200 年イベント 新川 200 年の踏み車体験、新川川下り、屋外歴史展示館の開催	越後新川まちおこしの会
西 5	7/14~10/8 の金・土・日・ 祝日	静田神社	新川史眼 2018 プロジェクト	新川史眼プロジェクト 2018
西 6	7/21~10/8	旧電鉄跡地「遊歩道」	山田校区アートの道	山田小学校区ふれあい協議会
西 7	9/19~9/24	西新潟市民会館ギャラリー、大堀線沿い商店街	2018 こばりアートフェスティバル	にいがたアートサーカス
西 8	8/18~9/2	旧武田家・新潟市文化財センター	木場城復活プロジェクト	木場の郷土を愛する会
西 9	7/15・9/2	内野まちづくりセンター	市民参加演劇劇団スワンの木「越後新川物語」	劇団 スワンの木

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
西 10	7/13・8/24・ 9/30	黒崎市民会館、新潟ふるさと村	昔話や伝説を語り継ぎ広める事業	黒崎とんと
【西蒲区】				
◎蒲 1	7/14～10/8 第1・3水曜除く	新潟市岩室観光施設いわむろや	にしかんを感じる拠点アート化プロジェクト	特定非営利活動法人いわむろや
蒲 2	8/18	新潟県農業大学校交流ホール	映像・講演・クロストークシンポジウム『湯と人の共存する未来』	新潟と会
蒲 3	7/14～10/8	トロピカルリゾートぼうわう、他	エメラルド・ヴィレッジ ～漂着者たちの村づくり～	夢育塾
蒲 4	7/14～10/8	岩室温泉街	自然エネルギーで温泉街を照らす岩室温泉わらアート・イルミネーション	岩室温泉地域づくり協議会
蒲 5	7/14～10/8	岩室温泉ゆもとや	空壇プロジェクト 三条仏壇×目【mé】in 岩室温泉【宿泊滞在型】	岩室温泉誘客推進プロジェクト
蒲 6	9/15・9/16・ 9/22・9/23・ 9/29・9/30	越前浜海水浴場	新潟 夏の終わりの砂浜フェスティバル	NPO 法人 ビクトリーラン
蒲 7	7月中旬・ 9月中旬・ 10月上旬	コーポ中吉川	「ロケットストーブ」製作プロジェクト	中吉川 AP
【複数区】 ※複数の区で実施するプロジェクト				
複 1	7/14～10/8 ※火曜・水曜 定休	新潟茶摘み倶楽部事務所、秋葉公園ほか	秋葉のみずつち学～茶葉古道	新潟茶摘み倶楽部
複 2	7/22 9/1～9/30 10/1～10/8	佐潟・上堰潟・御手洗潟・金巻の池ほか	新潟市内 16 潟めぐり・西編	マチあるき物語実行委員会
複 3	9月中旬	水と土の芸術祭 2018 会場、越前浜ほか	にいがたりんかいがっこう 2018	にいがたりんかいがっこう 2018 実行委員会
複 4	4/27～5/31 8/8～8/22 9/1～10/8	道の駅 庭園の郷 保内、新潟伊勢丹	保内まちごとアートガーデンプロジェクト	保内まちごとアートガーデン実行委員会

NO	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
複 5	7/14~10/8	水と土の芸術祭 2018 会場ほか	うちの de チンドン	うちの de チンドン
複 6	8 月・9 月で 1 回ずつ実施予定	信濃川流域	BSN アナウンサーとめぐる信濃川水土クルージングツアー	BSN 新潟放送
複 7	7/14~10/8	新潟市全域	新潟市ロケ地マップ制作プロジェクト	Feel Contents Communication
複 8	7/28・7/29・ 8 月上旬 ~ 10/8	みなとびあ、江南区文化 会館ほか	べつのみかたプロジェクト	べつのみかたプロジェクト
複 9	6/30・7/1・ 7/8・8/4・ 8/19 ほか	クロスパルにいがたほか	潟の夢映画祭 2018	潟の夢映画祭実行委員会
複 10	8/31~9/3	今代司酒造、ギャラリー 蔵織、銀花 naya、秋葉 硝子	「醸す」新潟古今趙遥	わいわい夢工房

2 こどもプロジェクト

次代を担うこども達の創造性を育むプログラムとして、芸術の面白さ、楽しさ、すばらしさを体感し満喫するとともに、地域の歴史・文化への理解を深める機会を提供する。

(1) 実施体制

多くの人に参加したくなる魅力的なワークショップ等の企画・実施をアーティスト及び教育関係者とともに進める。また、学生など広く市民が参画するプロジェクトを実施し、こども達が参加しやすい環境を整えるとともに、会場やワークショップ等で使用する素材・機器等についても安心・安全に配慮する。

学校を中心に展開するワークショップでは、教育職員から選任されたコーディネーターが、招へいアーティストとともに企画を行い実施する。また、こども達が芸術祭を身近に感じられるよう、各区役所と連携したプログラムを実施する。

(2) 実施内容

ア ワークショップ

(a) とびきりワークショップ

- 概要 市内の小・中学校教員がコーディネーターとなり、国内外で活躍するアーティストと共に多彩なワークショップを企画する。夏休みや週末を中心に実施することでこども達の参加性を高める。

※コーディネーターとして選任された教育職員が所属する学校へ、アーティスト出張型のワークショップによる研究授業などを実施。

内容	日時(予定)	プログラム名	会場	講師
アート	9月5日	どんどこ！巨大紙相撲～巡業～	女池小学校	土谷 享 (KOSUGE1-16)
	10月8日	どんどこ！巨大紙相撲～千秋楽～	NEXT21	
	7月4日	みんなで遊んで広がる絵画	鎧郷小学校	ハヤシ ヤスヒコ (パラモデル)
	7月7日・8日		西総合スポーツセンター	
	8月24日	こどもがつなぐ潟の宝(植物)を輝く未来へ	新潟市美術館	井川 惺亮
	8月27日		新潟ふるさと村	
	8月29日		佐潟水鳥・湿地センター	
	7月28日・29日	よろっとなすベースキャンプ ショートドラマを撮ろう	とよさかベースキャンプ	友政 麻理子
	8月12日	よろっとなすベースキャンプ オープニングパーティー！！	とよさかベースキャンプ	
音楽	7月21日	自然体験と音楽あそび「福島潟でガッタガタ、ホールで音楽ガックガク」	福島潟、ビュー福島潟 北区文化会館	野村 誠
	8月31日	笹山小ナンデモカンデモ交響曲 第831番「ヤサイの祭典」	笹山小学校	
	9月1日	一日限定！ 「こどもナンデモカンデモ交響楽団」	北区文化会館	
	9月24日	リズムにのってみんなでステップ！	音楽文化会館	ISOPP
	9月25日	ISOPPさんと元気に踊ろう♪	鏡淵小学校	

(b) 体験ワークショップ

- 概要 市内全区でそれぞれ地域の特色を生かした様々なプログラムを展開し、多くのこども達が芸術祭を身近に感じられるようにする。
- 内容 体験型ワークショップ など

○ 会場 各区

区	日付	連携事業名(予定)
北区	8月5日・6日	北区メガ盛り満福！ワイルド炊飯・1泊2日自然創作体験プロジェクト
東区	10月8日	寺山公園キッズワークショップ
中央区	7月21日・22日	NIIGATA オフィス・アート・ストリート関連企画～Miniature Port～
	7月28日・29日	NIIGATA オフィス・アート・ストリート関連企画～古町アートフラッグプロジェクト～
江南区	7月30日	わく灯籠で夕涼み～灯籠お絵描きワークショップ～
秋葉区	7月28日	Akiha あそび 2018の夏～里山冒険
	9月23日	Akiha あそび 2018の秋～地域の宝
南区	7月29日	しばって！染めて！！myハンカチ作り～白根絞り体験～
西区	9月22日	西区アートキャラバン関連企画～自然素材で工作遊び～
西蒲区	5月19日	味噌づくりとケンサ焼き体験

イ ワークシート

芸術祭の作品をこども達が分かりやすく、楽しみながら鑑賞するためのツールとして、発達段階に応じたこども向けのワークシートを配布し、各こども達にオリジナルワークシートを作成してもらう。

ウ キッズ・バスツアー

芸術祭の作品を鑑賞したり、地域の特色に触れたりできる、こども向け体験ツアーを夏休み期間中に実施する。

エ みずつち給食

地元食材や郷土料理を基に、創造的にアレンジした料理をメニューとして開発し、2018年7月の学校給食として提供する。7月6日には訪問給食を南万代小学校で実施する予定。[メニュー開発者:佐藤 智香子(料理教室「waiori kitchen」主宰、野菜ソムリエ pro.)]

	メニュー名・内容
みずメニュー	大かまスープ 水と土の芸術祭 2018 のメイン会場となる、通称「大かま」＝「大きなかまぼこ屋根が特徴な建物」からかまぼこを使用したスープ。芸術祭をイメージしやすいものとして表現している。
	アロイ！南蛮揚げ 本芸術祭ではタイやスペイン、中国、韓国、ロシアなど海外からも作家が参加されており、こども達にもなじみやすい“南蛮揚げ”という異国風料理から親しんでもらいたい。 備考：アロイ＝おいしい（タイ語）
つちメニュー	とびきりポークの生姜焼き 昔はほとんどの農家で副業として豚を飼っていたが、徐々にその農家も減ってきた。そのような生活を今は見ることが少なくなったが、新潟市での豚肉の消費量は今もなお多い。本芸術祭のテーマでもある「新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える」から、生活が変わっても昔から変わらない食があることを知ってもらおうきっかけとしたい。

	<p>水と土のめぐみサラダ (切り干し大根、枝豆、ひじきなどを使ったサラダ)</p> <p>新潟では古くから保存食として干し大根が食べられてきた。 また、昭和初期から開発がはじまり今は新潟の名産品である枝豆(特にくろさき茶豆は昨年度、地理的表示(GI)保護制度※に登録されました)は、評価も高く、消費量も多い。これからも普及が期待されている食材である。本芸術祭のテーマでもある「新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える」から、これまでの食材と、これからの食材を知ってもらおうきっかけとしたい。</p> <p>備考: 地理的表示(GI)保護制度とは、地域で長年育まれた特別な生産方法によって、高い品質と評価を獲得している農林水産品の名称を品質の基準とともに国に登録し、知的財産として保護するものである。</p>
--	--

オ ワークショップ事例集

本事業の記録だけでなく、事例紹介として、教育関係者をはじめ広く各方面に周知し、活用される事例集を作成する。

(3) プレイメント

西区アートキャラバン

- 概要 新潟大学と地域住民、西区役所が協働で行うアートイベント。こどもプロジェクトのプレイメントとしてワークショップを開催し、芸術祭のPRと機運醸成につなげる。
- 内容 流木アートワークショップ、ミニ演劇の実施など
- 開催 2017年10月21日(土)～2018年1月31日(水)
- 会場 黒崎市民会館、坂井輪地区公民館、西新潟市民会館、内野まちづくりセンター



水と土の芸術祭 2015 講師: 荒井良二

「カタガタ、マキマキ」～旅の絵巻ものがたり～



水と土の芸術祭 2015 講師: 井川惺亮

生き返る命の輝きをアートする(行方の第1歩)

撮影: 中村脩

3 アートプロジェクト

新潟の地勢的な成り立ちや、暮らし文化に深く根差した芸術性の高いアートプロジェクトを実施する。

アートプロジェクトは、市民や地域が様々な関わることができるものとし、また、多様な人が楽しみ、大きな集客力が期待できるものとする。造形物の制作だけでなく、ワークショップなども実施し、過去の芸術祭で制作・設置した作品についても、活用を図るものとする。

また、国際芸術祭として、海外作家の作品展示を行うとともに、福祉やアール・ブリュット^{*3}の視点を入れた展開や、芸術祭終了後も楽しめる新たな継続展示作品の設置を検討する。

加えて、より多くの方々に作品を理解していただけるよう、解説手法を工夫する。

(1) 会場

会場は、地域の特性を活かし、交通の利便性に配慮した場所で、より多くの方が作品に接することができる場所とする。

ア メイン会場：港と関連の深い「万代島多目的広場(大かま・屋外広場)」

質、量ともに充実したアート作品を展示することで、芸術祭終了後も市民が文化・芸術に親しみ、集える、賑わいの場の創出に繋げる。

イ サテライト会場：砂丘列を象徴する場所にある「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」※旧二葉中学校

アート作品を展示するほか、アーティスト・イン・レジデンス^{*4}を実施しながら、創作活動の拠点とする。また、市民向けのワークショップも開催する。

ウ その他会場：「新潟市美術館」「NSG美術館」「旧齋藤家別邸」「北方文化博物館新潟分館」「砂丘館」「安吾風の館」「天寿園」「新潟駅 CoCoLo 西 N+」
継続展示作品の会場については(4)のとおり。

(2) 作家・作品の選定方法

作家選定は、総合ディレクター及びアート・ディレクターが行う。

作家・作品の選定にあたっては、以下のコンセプトに基づいて行う。

【コンセプト】

新潟の自然の成り立ちは「水」と「土」に象徴されます。それは「地水火風」という古くからの「四元素」を思わせます。そこは豊かでパラエティーに富んだ「生命」の誕生をうながし育みまし。今回のアートプロジェクトは、こうした「四元素」を素材やテーマにし、生命感あふれる表現や人間のいとなみの歴史などを表現した作品によって構成されます。

また、かつて北前船の最大の寄港地であった新潟は、日本海を囲むアジア諸国をつなぐ日本の玄関口として貿易や文化交流で栄えてきました。この「四元素とそれによって育まれる生命」・「環日本海」という2つの大きな柱を基本コンセプトに、今日いっそう注目されるようになった、専門的な美術の枠を超えた自由な表現である「アール・ブリュット」などへの取り組みを含め、日本の各地域、さらには日本海から世界に向かって、メガ・ブリッジ(大きな架け橋)をかけていくという考え方に立っています。

^{*3} 「アール・ブリュット」→「(生)の芸術」とも訳され、既存の芸術教育を受けていない人たちが独自に作り出した作品の総称。

^{*4} 「アーティスト・イン・レジデンス」→各種の芸術制作を行うために招かれたアーティストが、一定期間滞在しながら作品を制作すること。

(3) 制作

市民や地域、学校などとの協働で取り組む。プロジェクトによっては企業、事業所、団体等との共催で行う。また、アート制作のスポンサーを募る。

(4) 作家及び作品数

38 作家・48 作品 ※詳細は(5)のとおり。

新規	展示会場	内 訳
30 作家・ 40 作品	メイン会場: 万代島多目的広場(大かま・屋外広場) (中央区)	8 作家・8 作品
	サテライト会場: 新潟市芸術創造村・ 国際青少年センター(ゆいぽーと) (中央区)	7 作家・8 作品 (アーカイブ展示・障がい者アートを含む)
	その他会場: 「新潟市美術館」「NSG美術館」「旧齋藤家別邸」「北方文化博物館新潟分館」「砂丘館」「安吾風の館」「天寿園」「新潟駅 CoCoLo 西 N+」 (中央区)	18 作家・24 作品 (うち再掲 3 作家)

継 続	展示会場	作品名
8 作家・8 作品	旧栗ノ木排水機場 (東区)	「栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった。」 作家: 磯辺 行久
	信濃川やすらぎ堤 (中央区)	「THE HEART OF TREES」 作家: ジャウマ・プレンサ
	西海岸公園 (中央区)	「おひるねハウス」 作家: 南川 祐輝
	関分記念公園 (中央区)	「心園の渡り」 作家: 管 懐賓
	清五郎潟 (中央区)	「BOAT HOUSE DOCK YARD[船の家 造船所]」 作家: 日比野 克彦
	新津美術館・前庭 (秋葉区)	「水の声-Water Whisper」 作家: 高田 洋一
	上堰潟公園 (西蒲区)	「海拔ゼロ」 作家: 土屋 公雄 APT(=アートプロジェクトチーム) 田原 唯之+木村 恒介
	角田浜 (西蒲区)	「ヒエログリフ」 作家: 浅葉 克己

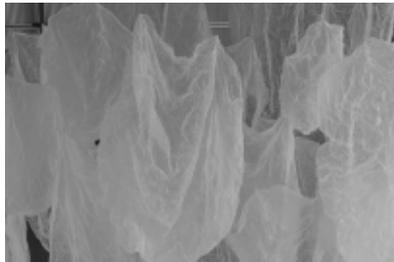
(5) 作品一覧(予定)

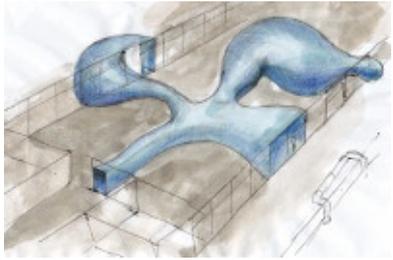
※新規作品のイメージは、2018年5月末時点のもの、もしくは過去作品であり、今後変更となる場合がある。アーカイブ展示含む。

○万代島エリア

万1	メイン会場「万代島多目的広場(屋外広場)」	
作家名	森北 伸(もりきた しん)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	Cultivate house 耕す家	
内容	<p>原初的な〈人と家〉にまつわるテーマを掲げながら、場と環境に深く関わる彫刻や絵画は普遍的でシンプルな形状ですが、どこかユーモアもたたえた作風。今回は、人間の営みを象徴する家型の作品。雨水を集める逆勾配になった真ちゅうの屋根の上に鋏を持つ人の像がシンボリックに置かれ、自然と人間との共生を願う象徴としての〈家〉を具現化。室内は、新潟を意識し〈砂〉を塗り固めた壁面に原始時代の洞窟壁画のようなドローイングを描く構想です。</p>	

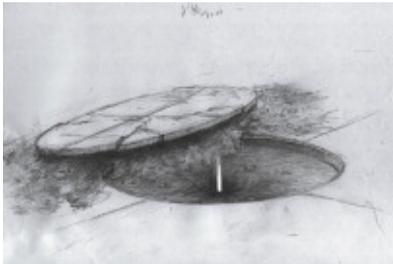
万2	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	ナウイン・ラワンチャイクン (Navin Rawanchaikul) ※タイ	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	四季の便り A Letter of Four Seasons	
内容	<p>人々との交流やインタビューを通して、地域の歴史や記憶を作品のなかに蘇らせます。かつて水産物の水揚げ場であった展示場所「大かま」。そこから着想し、漁師さんや魚屋さん、町の人々に、新潟の歴史、地理、文化を取材。</p> <p>自然や人生の循環(ライフサイクル)と「四季」の移り変わりを重ね合わせた絵画と映像作品を制作。作家自身が新潟の四季を体験し、綴った映像中の言葉は、歴史を遡り「過去」を記録すると同時に、「現在」を見つめ、「未来」に向けた人々への手紙でもあるのです。</p>	

万3	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	大西 康明(おおにし やすあき)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	untitled	
内容	<p>ポリエチレンシートや接着剤などの形を留めにくい素材を使って、眼に見えない空洞や余白を空間から取り出し、「体積」や「垂直」をテーマに視覚化する彫刻家。今回、熱で収縮させた薄いシートを天井から吊るし、「風や空」を意識させる新作を展示します。微風に揺れるほど軽く、本来水や土には還らない人工的な膜でありながら、雲のような有機的な質感と動きを見せる作品は、新潟の空や風景と呼応して、見えている向こう側へと導きます。</p>	

万4	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	松井 紫朗(まつい しろろう)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	Soft Circuit Fish Loop	
内容	<p>染色体を意識させる巨大な回路でメイン会場を縦横無尽につなぐと同時に、海からも会場に向かう新たな回路を作り関係づけます。体内を行きかう細胞のように、巨大なチューブ状の内部と外部の両方を巡る来場者の視線が、地上の世界を散歩する海の生物のそれと重なるかもしれません。二つの作品は、様々なスケールの空間と異なる時間を渡り歩くかのような経験をもたらす「架け橋」となります。</p>	

万5	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	伊藤 公象(いとう こうしょう)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	地表の襞 eros&thanatos の迫間	
内容	<p>変化する「土」の質感を追求しながら、素材のありのままの姿を作品化してきた陶造形作家は、作歴50年の集大成となる大作を出品します。新作は、新潟の土を混入した褐色の陶土も用い、約 7,500 個ものピースを床に円形に設置することで、地球創生の大地を想わせます。マグマの隆起によって亀裂が走ったような《起土》シリーズと、生命の有機的な曲面を持つ《多軟面体》シリーズなどを対比的に見せることで、生と死の迫間を生きる我々に生成の貴重な意味を問いかけます。</p>	

万6	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	塩田 千春(しおた ちはる)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	どこへ向かって	
内容	<p>天空から降り注ぐ雨のごとく、垂直の黒い糸に吊り下げられるのは、床から天井へと緩やかに昇天する100艘の舟。純白の糸が重なり合っ て見えてくる舟のシルエットは、実体感のない幻想の中を漂いながら、黄泉の国をさまよう人々の姿を象徴しているかのよう。芸術祭の基本理念とも重なる《どこへ向かって》と題された作品は、存在とは何かを問いながら、生きることの意味を探し続け「生と死」という永遠のテーマを投げかけます。ドイツ在住で世界的に活躍する塩田千春の最新日本未発表作です。</p>	

万7	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	遠藤 利克(えんどう としかつ)	イメージ 
作品名	Trieb—地中の火	
内容	遠藤利克は彫刻を学びましたが、最初期から地水火風など根源的な物質を用いて制作してきました。第一回目の「水と土の芸術祭」では「水」を使いましたが、今回は「火」による表現を試みます。題して《地中の火》。かつて魚類のせり場であった「大かま」の地下からシンボリックな炎が立ち上がります。人類は「火」を有したことで生活を豊かにし、文明を発展させてきました。いわば人類の発展とともにあった「火」は、この作品を通じてわれわれに感謝とともに厳かな気持ちを呼び覚ますでしょう。	

万8	メイン会場「万代島多目的広場(大かま)」	
作家名	岩崎 貴宏(いわさき たかひろ)	イメージ 
作品名	untitled	
内容	地上の実像と水面に反射する虚像とを一体化させた歴史建築物を木製模型で再現する《リフレクション・モデル》や、壮大な風物を繊細な糸などを用いてスケールダウンする作品で注目を集める作家。「虚と実」、「ミクロとマクロ」の対比から生まれる造形は、私たちの視覚と感覚を刺激し、世界の新たな捉え方を見せてくれます。新作はメイン会場の大空間に、河川や橋など新潟の風景を想起させる作品を発表予定。	

万9	新潟駅 CoCoLo西N+	
作家名	間島 領一(まじま りょういち)	イメージ 
作品名	日の丸弁当	
内容	人間の根源的な「欲望」である「食」をテーマにユニークで刺激的な作品を展開してきました。ラーメンどんぶりに浸かって麺をすする《ヌードル・ボーイ》、巨大なハンバーガーや目玉焼きなど、キッチンで意表を突いた食物のオブジェに私たちは驚かされてきました。今回はぎっしり詰まった白米に梅干しがのった《日の丸弁当》。シンプルで力強い作品が新潟の食をシンボライズしてくれます。	

万10	信濃川やすらぎ堤	継続展示	
作家名	ジャウマ・プレンサ(Jaume Plensa) ※スペイン		<p>イメージ</p>  <p>撮影：中村脩</p>
作品名	THE HEART OF TREES		
内容	<p>信濃川を望む公園の散歩道に置かれた、樹木を抱えて座る2人の人物像。銅で鑄造された身体には、世界中の多くの音楽家たちの名前が浮き文字で記されています。曲を聴き、目を閉じながら、腕の中で木々を守り育てる姿は、永い時を経て信濃川の守り人のように、風景と同化していくことでしょう。</p>		

○砂丘エリア

砂1	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」		
砂10	NSG 美術館		
作家名	高見沢 美穂(たかみざわ みほ)		<p>イメージ</p> 
作品名	きのぼりレリーフ(さかなの群れ) KOBAKO		
内容	<p>サテライト会場の食堂の壁面には、子供たちが自然を感じながら楽しめるよう、海の世界をテーマに、楽しそうに泳ぐ魚たちの群れを陶板のレリーフ・陶製時計で表現します。</p> <p>NSG 美術館には、「家」を連想させる蓋付の小箱を、ミニチュアの街並みのようにカラフルに並べる《KOBAKO》シリーズを出品。見た人の大切な想いを詰め込んで欲しいという願いを手のひらサイズの小箱に込めて制作しており、親子で想像を膨らませながら、是非お気に入りの家を探して楽しんでください。</p>		

砂2	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」	
砂9	NSG 美術館	
作家名	伊藤 遠平(いとう えんぺい)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	ミーヤ・ホーヤと不思議な海の仲間たち もりびとたち	
内容	<p>サテライト会場の作品では、石粉粘土で作られたオブジェと物語性のある絵画による「海」を舞台にした想像の物語を紡ぎ出します。小さな妖精の主人公「ミーヤとホーヤ」が摩訶不思議な海の生態を覗き見ながら繰り広げる旅の世界観は、大人も子供も楽しめます。</p> <p>NSG 美術館では、増殖する自然界の生命体が混沌としたイメージで広がっていく絵画と、新潟砂丘の防砂林として群生しているグミの木を用いた焼き物による抽象的オブジェなどを展示。具象と抽象／立体と平面の双方の表現領域を行き来しながら、生命の根源に触れるような表現を見せます。</p>	

砂3	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」	
作家名	占部 史人(うらべ ふみと)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	浮き寝の旅 Drifting Through	
内容	<p>海に浮かぶ島々、それらを結ぶさまざまな船、島の暮らし、航海などをテーマに、素朴で愛らしいオブジェやドローイングで構成したインスタレーションを制作。</p> <p>日記を紡ぐように、海岸で日々拾い集めたものを素材にした作品は、彼の手によって新たな命が注がれます。今回は滞在制作しながら、新潟の海岸で拾った流木や石などが発する声なき声を作品化することで、ものに宿る〈過去〉と新たな〈未来〉を繋ごうとしています。そこには、〈輪廻転生〉の思想が息衝いています。</p>	

砂4	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）」	
作家名	阪田 清子（さかた きよこ）	イメージ 
作品名	Landscape—水の緒	
内容	異国の言語の記された漂着物が打ち上げられる日本海に臨む海岸を歩き、「対岸」に想いを巡らせる作家。本芸術祭のための新作では、立ち枯れの樹の中から/へと、小枝や流木でできた小舟が出入りしていくイメージを作品化します。横たえられた樹木は、漂着を受け入れると同時に外海への出発の場でもある「港」。舟は、鳥の巣や卵、家のように生命を育む「器」をイメージ。それぞれ目的地の異なる舟は、見えない境界線を越えて行き交い、鑑賞者によって異なる様々な「あちら」と「こちら」を想起させます。	

砂5	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）」	
展示名	水土アーカイブ	イメージ 
内容	いま全国各地で「芸術祭」が花盛りです。こうした自然や街の中の建物などを場に展開されている芸術祭はいつごろから始まったのでしょうか？自然や街や人々の暮らしの中へ、芸術は生活を見直し、豊かさを感じさせ、地域はもとより多くの人々と共感と交流の機会を育む人々の生活にとって欠かすことのできない社会現象として知られるようになりました。その歴史を年表や資料によって、また「水と土の芸術祭」の直接のルーツともいべき「'85 瀬沼・土の光景」（茨城県、1985年）を写真、資料などで振り返ります。過去の芸術祭のカタログやガイドブックなども手にとって読めるコーナーも設けます。	

砂6	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）」	
作家名	丑久保 健一（うしくぼ けんいち）	イメージ 
作品名	1・0・∞のボール	
内容	柔らかく凹んだように彫り込まれた木彫のボールを、海のピースと陸のピースとして108個ずつ作成し、それぞれ陸と海に放ち、丸い地球上に丸いボールが拡がっていく壮大なコンセプトで、1987年に発表された《1・0・∞のボール》。〈1〉は有、〈0〉は無、〈8〉は横にすると無限を意味しており、この彫刻家の思慮深さが感じられます。70年代より大谷石採石場の暗黒の地下空間を体験するなどの行為を通じて精神性を高め、壮大な空間意識を凝縮した彫刻で活躍しました。丑久保健一の世界観を作品と映像で振り返ります。	

砂7	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」	
作家名	角地 智史(かくち さとし)	イメージ
作品名	私への贈り物、私への忘れ物	
内容	写真というメディアを通じて、人と人との関係性を探る一方で、障がい者の表現活動への支援を行ってきた作家は、これまで障がい者と健常者が交流するさまざまな機会をつくってきました。今回、作家は<もの>として作品を作るのではなく、交流によって生まれる行為<こと>に焦点をあて、これまで関わりのあった障がい者や家族、施設職員から“私”への「贈り物」を募りました。作家に代わり来場者が「贈り物」を開封することで、その関係性を垣間見るような新たな試みを構想しています。	

砂8	サテライト会場「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」	
作家名	富井 大裕(とみい もとひろ)	イメージ
作品名	粘土の為のコンポジション	
内容	作家は見慣れた日用品をある法則に基づいて、重ねたり、並べたりすることで意外性に満ちた表現を生み出してきました。一方で、単純化した人のかたちを粘土で造形。彫刻の原型を探っています。今回はその延長上で、テラコッタや石膏による人型を配置、それを取り巻くように海辺の松林のスケッチを展示します。「水と土」を「海と陸」と読み替え、松林と新潟に生きる人々をシンクロさせるのです。身を横たえる「ひとがた」は、海のかなたの世界と向き合う新潟の人々を象徴的に表しています。	

砂11	NSG 美術館	
作家名	伊藤 知香(いとう ちか)	イメージ
作品名	日常より	
内容	作家は、誰でもが生活の中で眼にする鞆や靴・帽子といった日用品のフォルムを、陶造形として表現しています。NSG美術館の床に配置される作品たちは、見慣れた生活空間のような雰囲気醸し出します。その一方で、本物に似せるのではなく、統一された黒一色の陶造形からは人の気配を覚える影の存在も表出させて、日常から非日常の空間へと見る人々を誘います。また、展示作品のイメージを基に、見て懐かしいミニチュアの靴(陶シューズ)を自由に作るワークショップも開催します。	

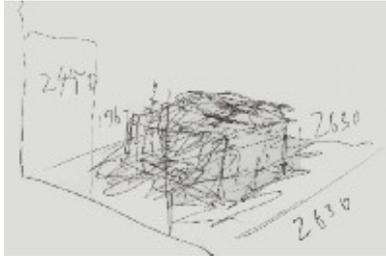
砂12	NSG 美術館	
作家名	柳 根澤 (ユ・グンテク Yoo,Geun-Taek)※韓国	イメージ 
作品名	A Landscape, Flowing Down	
内容	室内や風景の中に増殖していく植物や物体などを描き、平凡と異常、生成と消滅、実在と幻影といった対立項を、魔術的な印象で描いています。今回「環日本海」の「水」をテーマとした NSG 美術館の会場では、湖面に映り込む風景が反転した、幻影のような水景を描いた《A Landscape, Flowing Down》シリーズの大作 2 点を出品します。	

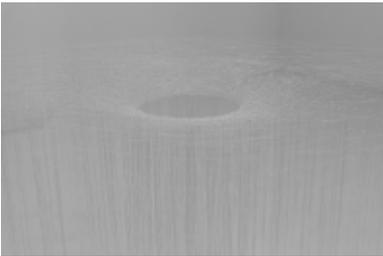
砂13	NSG 美術館	
作家名	荒井 経(あらい けい)	イメージ 
作品名	べろ藍の風景	
内容	日本海を囲む国々の作家たちで構成される NSG 美術館の 2 階会場で、荒井経は「べろ藍」を和紙に水平に浸透させた《べろ藍の風景》の 2 点を展示します。飲み込まれるような深い藍色は浮世絵師たちに好まれたものです。西洋画に対抗して剛直なマチエールを求めた従来の日本画を覆すように、荒井経の絵画は瑞々しい日本の美意識を現代風に引き出しています。	

砂14	NSG 美術館	
作家名	セルゲイ・ヴァセンキン(Sergey Vasenkin)※ロシア	イメージ 
作品名	ぼくは船長になる	
内容	ロシアのサハリン島ユジノサハリンスクに住む画家で、海の波などの海景を中心とした油彩画を手掛けています。冬の日本海にも共通する、激しく岸边に打ち寄せる波の描写は見る人を圧倒します。ロシア内陸部出身の作家は、子供の頃から強く海に憧れ、いつか船長になりたいという夢がありました。海辺に腰を下ろし、その夢を育む少年を描いたのがこの作品。作家によれば、飛沫を上げるリアルな波は想像で描いたもの。海への尽きせぬ憧憬とロマンチックな心情がそれを描かせたのかもしれませんが。	

砂15	NSG 美術館	
作家名	潘 逸舟(ハン・イシュ Han Ishu)※中国	イメージ 
作品名	波を止めている夢	
内容	現代社会・自然環境を主題に、身体と風景との関係を可視化する作品を制作しています。今回は、日本海を取り囲む国々の作家が集う〈海の波〉をテーマとした会場で、国境を越え迫りくる、様々な障害を象徴する海の波を、警備員に扮した作家自ら、ひたすら止めようとする姿を映像で見せた 2017 年の作品《波を止めている夢》を、新たに連続した写真として発表します。	

砂16	NSG 美術館	
作家名	梶井 照陰(かじい しょういん)	イメージ 
作品名	NAMI	
内容	シベリアからの強風によって荒れ狂う佐渡の海を撮影した《NAMI》シリーズで、一躍脚光を浴びた写真家で、佐渡に住む僧侶でもある作家は、「さどの島銀河芸術祭 2018」の実行委員長も務めます。《NAMI》の発表以後も佐渡の波を撮り続けており、今回は激しい波飛沫の一瞬を、造形的にレンズでとらえた 2 枚の写真を連結し、強烈なインパクトで迫ってくる大型の新作写真を発表します。	

砂17	砂丘館	
作家名	遠藤 利克(えんどう としかつ)	イメージ 
作品名	Trieb—畳・近代	
内容	新潟を代表する「和の空間」である「砂丘館」で、遠藤利克は焼いた畳を積み重ねます。不届きな!と思われるかもしれませんが。でもこの作品には深い意味が込められています。畳はいわば日本近代の象徴。それを焼くことは自らの生まれ育った日本文化を問い直すことでもあります。遠藤の作品には驚きとともに、つねに自身に向けられた問いの形が存在しています。そして焼くことにはリポーン(再生)という意味が込められています。春の野焼きが新しい丈夫な植物を育むように。命あるものがその存続のために生死の輪廻を繰り返すように。	

砂18	砂丘館	
作家名	池内 晶子(いけうち あきこ)	イメージ 
作品名	Knotted Thread	
内容	赤や白のシンプルな色彩の絹糸を、無数に空間に張り巡らせながら、静寂の内に神秘的な空間を創り上げる造形作家。絹糸を結び合わせて宙づりにする造形は、息をのむような繊細さを秘めています。作品の配置は方位によって決められ、空間に潜む見えない磁気(力)まで作品に取り込まれています。用いるのはあくまで絹糸で、今回は今では珍しい養蚕による絹糸を探し、砂丘館の「和の空間」で、新潟産の絹糸を素材とする新作を構想しています。	

砂19	砂丘館	
作家名	山本 糾(やまもと ただす)	イメージ 
作品名	光・水・電気	
内容	天と地の間を固体・液体・気体と姿を変えていく「水」。作家は、自然の滝や人工水路のうねり・鏡のような貯水池の水面、工場の煙突から噴き出る水蒸気など、自然と人工の二つの世界で変化する隠れた水の光景に隠れた「循環」という視点を持ち、カメラで捉えてきました。今回は、新潟を水害から守っている大河津分水や関屋分水、山の下閘門など(信濃川の治水)に関する水路・水門を、大判カメラとデジタル・カメラで撮影。白と黒のモノクロームの世界で「新潟の水」を象徴的に表現する新作を発表します。	

砂20	砂丘館	
作家名	青木 野枝(あおき のえ)	イメージ 
作品名	立山 - 2018 / 砂丘館	
内容	空間や環境との調和を醸し出す、鉄を素材とした軽やかな彫刻を作り出す作家。鉄板を棒状に切り出し溶接することで、部屋の中に四角い新たな空間を存在させています。砂丘館の和の空間に合わせ、石鹸などを積み上げた台の上は、床の間に置いた捧げもののように日本人の愛でる心を象徴的に見せています。	

砂21	砂丘館	
砂27	新潟市美術館	
作家名	古川 知泉(ふるかわ ちせん)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	Rain Tree(降り注ぐ恩寵)	
内容	<p>生け花の理念に基づいた自然や命、生の循環を精神的テーマとしています。今回は、無数の白い糸を等間隔に枝から垂直に下げ、その狭間に静寂な細い雨が降り注ぐ作品《Rain Tree》を砂丘館と新潟市美術館二つの会場の庭で展示します。大地は豊穡の水を得て植物を育み、生け花はその植物の命をいただいて表現するものという考えから、「豊穡なる水」=「雨」が天から「降り注ぐ恩寵」というイメージを具現化します。</p>	

砂22	安吾風の館	
砂24	旧齋藤家別邸	
砂26	新潟市美術館	
作家名	星野 暁(ほしの さとる)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	凍雲 始まりのかたちー螺旋' 17 再生/コペルニカス以前の泥Ⅱ 古代緑地の雨	
内容	<p>自然としての土と人間としての身体の関りから生れる造形にこだわり、結果として現れた黒陶による冷え固まった溶岩のような原始的な大地のイメージと制作プロセスの痕跡である無数の指跡が残る作品を発表しています。今回、触覚を眼で感じるようなゴツゴツした黒陶のパーツを、円筒形の柱状、あるいは壁に渦巻く形で設置し、素材は土でありながら、〈樹木〉や〈森〉をイメージさせる展示を、3つの会場に合わせて発表します。</p>	

砂23	旧齋藤家別邸	
作家名	青木 千絵(あおき ちえ)	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	BODY 08-2 -昇華- BODY 17-3 マケツ BODY 10-1 マケツ	
内容	<p>〈身体〉をテーマに、空間に溶け出すような流線形のフォルムをもつ人体像を、伝統的な素材である〈漆〉を使って、《BODY》と名付けたシリーズを発表。フォルムの美しさや神秘さを、漆黒の色彩によって表現しています。作品は、旧齋藤家別邸の蔵に合わせ、魂が自然界へと昇華し、宇宙へ繋がっていくイメージで、上半身が伸長する形の大作。麻布に漆を塗り重ねる〈乾漆〉の技法が使われており、漆の良さを現代アートを通して再認識できます。</p>	

砂25	北方文化博物館新潟分館	
作家名	(コラボレーション企画) 荒井経 × 柳根澤	<p style="text-align: center;">イメージ</p> 
作品名	対話—砂丘列で潮音を聴きながら	
内容	<p>日本、中国、韓国など東アジア諸国は絵画表現で多くの共通性があります。そうした国々の画家であり、研究者である荒井経や柳根澤は今回の芸術祭で、晩年會津ハーが住んだ北方文化博物館新潟分館でそれぞれの作品を対話するように展示します。1階では「人と街」をテーマに公園の水と木、2階(潮音堂)では「人と自然」をテーマに海とグミの木が描かれます。現代風屏風仕立ての絵画を眺めつつ、潮音に耳をそばだてるという趣向です。</p>	

砂28	西海岸公園	継続展示	
作家名	南川 祐輝(みなみかわ ゆうき)	<p style="text-align: center;">イメージ</p>  <p style="text-align: right; font-size: small;">撮影：中村脩</p>	
作品名	おひるねハウス		
内容	<p>立方体を9つの小室に分節した最小限の建築。海からの風や音を感じながらおひるねしたり、本を読んだり、物思いに耽ってみたり。それぞれが気ままに陸と海の境界で水と土の風景を五感で感じる作品。</p>		

砂29	関分記念公園	継続展示	
作家名	管 懷賓 (グアン・ファイビン Guan Huai Bin)※中国		イメージ
作品名	心園の渡り		
内容	今まさに大海に出航する2つの併走する舟のように、新潟の人々と海との深い絆を色濃く反映する精神の拠所として、海を望む公園に置かれました。竜骨のように組まれたフレームは視覚的な迷宮を巡りながらも、遥か彼方へと視線を誘います。帆を揚げるマストのような16本の柱は、詩的な感性を空へと昇華させる象徴としてそびえています。		

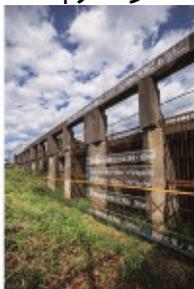
○鳥屋野潟エリア

鳥1	天寿園		
作家名	折元 立身(おりもと たつみ)		イメージ
作品名	STEP IN		
内容	1980年ニューヨークに始まり、ロンドン、アムステルダム、ミラノ、中国、スリランカなど、世界を放浪します。街頭に立つ作者は自らの旅の証拠として、スニーカーを履いた自身の足と路上を共に写真に撮りました。この連作《ステップ・イン》には、各都市の独特な色彩と雰囲気の色濃く焼き付けられ、まさに作者の存在証明といえます。自由に境界を越えていく作者の行為は、今日の国際的な分断と対立の時代に強いメッセージとしてわたしたちに迫ってきます。		

鳥2	天寿園		
作家名	潘 逸舟(ハン・イシュ Han Ishu)※中国		イメージ
作品名	循環 痛みを伴う散歩 波を掃除する人		
内容	現代社会・自然環境を主題に、身体と風景との関係を可視化する作品を制作しています。身体の水と、環境の水が循環するイメージで、湖面のさざ波と人の流す涙を連鎖したり、自ら雪に埋もれ、風景と同化していく作品など、身体と風景の関係性を可視化する複数の物語を映像で見せてくれます。また中国式庭園には、「足つぼ」になった足型を踏みしめながら回遊することで、感覚的な刺激を伴い景色を眺める体験型作品も設置します。		

鳥3	天寿園	
作家名	山内 光枝(やまうち てるえ)	イメージ 
作品名	海胎 みつち・みずち	
内容	海を舞台に、埋もれつつある人間の根源的な記憶や営みを探り、その生きた風景を作品化してきました。海からやってくる神々や、流動する自然エネルギーの化身として古来より祀られてきた大蛇の呼称「みつち／みずち」を芸術祭のタイトル「水と土」に重ね、新潟の風土からヒントを得た砂袋とドローイングによる「蛇の室」をイメージした空間を創出します。また、近年の黒潮～対馬暖流域でのリサーチに加え、新たに新潟と鬱陵島に滞在し、生命の起源である海から導きだされる人間の営みや世界観を表現した映像作品を構想しています。	

鳥4	鳥屋野潟(旧栗ノ木排水機場)	
作家名	青木 野枝(あおき のえ)	イメージ 
作品名	もどる水 - 2018	
内容	硬い鉄をバーナーで溶かし切り出したパーツを組みあげて、空間に自由なドローイングを描くような、風の吹き抜ける軽やかな彫刻を作り出す作家。今回は、水流と人為がせめぎあった「旧栗ノ木排水機場」を舞台に、場に眠る水の記憶をよみがえらせます。〈水を排する〉というイメージから生まれた新作は、天空から降り注ぐ雨を束ね、あるいは山から川へと流れる水の軌跡といった、自然界を巡る様々な水の姿を想像させてくれます。	

鳥5	鳥屋野潟(旧栗ノ木排水機場)	継続展示
作家名	磯辺 行久(いそべ ゆきひさ)	
作品名	栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった。	
内容	1948年に竣工し、東洋一と呼ばれた栗ノ木排水機場は、湿地が広がっていた旧亀田郷の水を人工的に排水し、巨大な低湿地帯を豊かな田園地帯へと変貌させました。近代農業土木のシンボルともいえる遺構の一部を掘り出し、かつての水位を表示することで、鳥屋野潟周辺の土地や歴史を、海面潮位の変化との関わりで体感させてくれる作品です。	
		イメージ  撮影：中村脩

鳥6	清五郎潟	継続展示	
作家名	日比野 克彦(ひびの かつひこ)		イメージ
作品名	BOAT HOUSE DOCK YARD [船の家 造船所]		
内容	新潟市を流れる阿賀野川で2010年まで30年間、遊覧船として運行していた船を2015年に改良して鳥屋野潟に設置し水辺の拠点としてBOAT HOUSEは始まりました。現在は清五郎潟に移設して、潟の将来の姿を考え続ける場として展開しています。		
			撮影：中村脩

○その他エリア

他1	新津美術館・前庭	継続展示	
作家名	高田 洋一(たかだ よういち)		イメージ
作品名	水の声—Water Whisper		
内容	土で作られた円錐台の作品頂上には水を湛えた天窗があり、陽の光が室内に射し込むと、風にそよぐ木漏れ日を内部に映し出します。そして頂上の水は、一滴ずつ「水琴窟」に落ち、「水の声」を響かせます。光と音で自然の揺らぎを体感させる、現代の茶室のような作品空間です。		
			撮影：中村脩

他2	上堰潟公園	継続展示	
作家名	土屋 公雄 APT(=アートプロジェクトチーム) 田原 唯之+木村 恒介 <small>(つちやきみお えー・ぴー・ていー たはら・ただゆき+きむら・こうすけ)</small>		イメージ
作品名	海拔ゼロ		
内容	角田山の麓にある公園の調整池へと鋭く入り込む、スロープ状の鉄で作られた長い通路。進むほどに目前に迫る水面を見ながら、海拔ゼロメートルの視界を実感する作品です。それは、生い茂る湿原の水に、かつて腰までつかって農作業をした先人たちの視界でもあるのです。		
			撮影：中村脩

他3	角田浜	継続展示	
作家名	浅葉 克己(あさば かつみ)		イメージ
作品名	ヒエログリフ		
内容	海に臨む角田浜の小高い台地に、サークル状に林立する石碑群。黒光りする御影石には、古代エジプトの象形文字(ヒエログリフ)によって、冥界の神々や王の名前が刻まれています。どこまでも続く日本海の景観を眺めながら、過去・現在そして未来まで、人類文の辿った時の流れに思いを馳せる作品です。		
			撮影：中村脩

(6) 参加作家によるワークショップ

参加作家によるワークショップを開催し、芸術祭を観覧するだけでなく、体験を通じてたのしんでもらう。

○結(ゆい)ゆいワークショップ

講師	日時(予定)	プログラム名	会場
占部 史人	7月28日(土)	航海図を描こう	新潟市芸術創造村・国際青少年センター
	9月2日(日)	古代の舟をつくろう	
高見沢 美穂	8月19日(日)	焼き物で家型小箱をつくろう!	
角地 智史	7月21日(土)	名前もつけてやる	
	8月6日(月)	施設をめぐるめぐる	
	8月25日(土)		
	9月10日(月)		
9月29日(土)			
伊藤 遠平	7月29日(日)	不思議な海のゆかいな魚をつくろう!	
	8月18日(土)		
伊藤 知香	9月8日(土)	焼き物でベビーシューズをつくろう!	

4 シンポジウム

芸術祭の取り組みと連動したテーマを設定し、オリンピック文化プログラムや新潟開港 150 周年などに関連させた「水と土」に相応しい、新潟らしい魅力(食・農・おどり・海・川・潟・砂丘・港 など)の発信と地域活性化につながるトークイベントを開催する。

なお、シンポジウムは市民プロジェクト、こどもプロジェクト、アートプロジェクトとも連携し、相互に増幅させるものとし、会期中に開催するほか、芸術祭の機運醸成を図るためプレシンポジウムを開催する。

(1) テーマ

「自然との共生」を大きなテーマとし、芸術祭の取り組みと連動したシンポジウム等を行う。

(2) シンポジウム(会期前 2 回、会期中 2 回 計 4 回)

ア 第 1 回プレシンポジウム

- 開催日 2017 年 10 月 14 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
- 会場 新潟市北区文化会館
- タイトル 「潟と人との未来へのメッセージ」
- 概要 福島潟をはじめとして、地域の人々に守られている潟(湖沼)がいくつもある。基調講演の実施及び潟の自然を活かした学習に取り組んでいる子ども達からの発表などを通じて、新潟市の宝である「潟」をはじめとする豊かな自然環境について再認識し、「自然との共生」について理解を深める機会とする。
- 出演 第 1 部 基調講演「さかなクンのお魚教室～自然環境を大切にしよう～」
講師 さかなクン(新潟おさかな大使／
国立大学法人東京海洋大学名誉博士・客員准教授)
- 第 2 部 潟に関する活動報告
司会 遠藤 麻理(フリーアナウンサー)

イ 第 2 回プレシンポジウム

- 開催日 2018 年 2 月 8 日(木) 午後 6 時～午後 8 時
- 会場 りゅーとぴあ劇場
- タイトル 「現代アートの行方 ～同時代のアート、そして、未来のアートの存在意義～」
- 概要 現代の“アート”の現状と課題、そして“アートプロジェクト”の功罪について議論し、ポストモダン以降の日本文化としての現代アートの価値と存在意義について考え、未来に向けた方向性を探る。また、市民に向けては、“現代アート”の楽しみ方を提示する。
- 出演 パネリスト
逢坂 恵理子(横浜美術館館長／
ヨコハマトリエンナーレ 2017 コ・ディレクター)
谷 新(水と土の芸術祭 2018 総合ディレクター)
藤 浩志(秋田公立美術大学 副学長、教授／
水と土の芸術祭 2018 市民プロジェクト・ディレクター
" " こどもプロジェクト・ディレクター)
- 山口 晃(現代美術家)
- 山内 朋樹(京都教育大学講師)

水田へと転換されたことで、郷土食を支えていた地域食材の確保が困難になった。100余年を経た現在では、当時のレシピを知る人や記録も失われつつある。

本シンポジウムでは、こうした郷土食の現状を理解するとともに、食文化の再生が地方創生につながる可能性について議論する。

○ 出演 第一部 基調講演

「和食の範囲 ～郷土食の再生からの新たな展開～」(仮)

服部 幸應(服部栄養専門学校校長)

第二部 パネルディスカッション

パネリスト

服部 幸應(服部栄養専門学校校長)

宗田 好史(京都府立大学京都和食文化研究センター長)

下仲 隆浩

(小浜市教育委員会文化課日本遺産活用グループ・グループリーダー)

モデレーター

太下 義之(三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

芸術・文化政策センター主席研究員/センター長)

(3) トークイベント(会期前 2回、会期中 4回 計6回)

ア 第1回イベント

○ 開催日 2017年8月20日(日) 午後2時～午後3時30分

○ 会場 新潟市美術館 講堂

○ タイトル 「惑星の光と声、新潟の水と土」

○ 概要 新潟の風景写真と新潟の音等の映像と音声を交えたトークイベント

○ 出演 石川 直樹(写真家)

森永 泰弘(サウンドデザイナー)

イ 第2回イベント

○ 開催日 2017年11月23日(木・祝) 午後1時30分～午後3時30分

○ 会場 江南区文化会館 多目的ルーム

○ タイトル 「江南区の砂丘の地理と歴史～砂は崩れ、また山となる～」

○ 概要 砂崩や砂山といった、ユニークな地名の由来や、砂丘列の地理的背景や亀田郷の歴史等に関する講演会。

○ 出演 小林 隆幸(新潟市歴史博物館 学芸担当次長兼学芸課長・学芸員)



第1回イベント

「惑星の光と声、新潟の水と土」

ウ 第1回みづつち座談会

- 開催日 2018年7月15日(日) 午前10時00分～正午
- 会場 天寿園 ホール
- タイトル 「対岸に橋を架けるー異文化を生きるアーティストたちー」
- 概要 隣国の文化を体験することで自らを相対化し、互いのあいだに想像力の橋を架けようとする東北アジアー中国、韓国、ロシア、日本ーの作家たち。そんな作家たちの体当たりの挑戦に光を当て、新潟の未来を語るトーク。
- 出演 阪田 清子、山内 光枝、潘 逸舟、荒井 経
(いずれもアートプロジェクト参加予定作家)
- ファシリテーター 塩田 純一(水と土の芸術祭2018アート・ディレクター)

エ 第2回みづつち座談会

- 開催日 2018年8月19日(日) 午後1時00分～午後2時30分
- 会場 ビュー福島潟 6階 展望ホール
- タイトル 「福島潟の“河童のユウタ”に会おう」
- 概要 『河童のユウタの冒険』の挿絵を描いた金井田英津子氏を招き、物語の舞台となった福島潟や信濃川の自然と、その自然との付き合い方について考える。作中では描かれなかった「ユウタの棲家」の絵も初公開？
- 出演 金井田 英津子(版画家)、高橋 郁丸(新潟市潟環境研究所協力研究員/新潟県民族学会理事)、大熊 孝(ビュー福島潟名誉館長/水と土の芸術祭2018 参与)

オ 第3回みづつち座談会

- 開催日 2018年9月1日(土) 午後2時00分～午後4時00分
- 会場 サテライト会場 2階 コミュニティスペース
- タイトル 「障がいとアートの話ー面倒と寛容の中で生まれることー」
- 概要 「障がいとアート」ってなんだろう？様々な立場の人たちが集まって、『私への贈り物 私への忘れ物』の会場で生まれる<こと>に触れながら語り合う。
- 出演 角地 智史(アートプロジェクト参加予定作家)と福祉とアートに関わる人たち
- ファシリテーター 吉野 さくら(コメタク)

カ 第4回みづつち座談会

- 開催日 2018年9月8日(土) 午後2時00分～午後4時00分
- 会場 新潟市美術館 講堂
- タイトル 「遠藤利克×松井紫朗×富井大裕による いま語りたい「彫刻」ー彫刻はどう変わり、どこへ向かおうとしているのかー」
- 概要 遠藤利克は1970年代、松井紫朗は80年代、富井大裕は90年代以降と異なった時代にスタートした三作家による彫刻をめぐる彫刻を通じて世界と結び合う魅力的なトーク。
- 出演 遠藤 利克、松井 紫朗、富井 大裕
(いずれもアートプロジェクト参加予定作家)
- ファシリテーター 谷 新(水と土の芸術祭2018 総合ディレクター)

5 にいがた JIMAN

芸術祭の機会を活かして、国内外の来場者が水と土によってもたらされた最大の宝物である「食」や「農」、「伝統芸能」、「おどり」など、新潟ならではの体験をすることを通じて、新潟市の誇る豊かな文化を広く効果的にPRする。

来場者の満足度を向上させるとともに、地域の活性化や、地域経済の発展につながるよう、多くの経済団体・地元業者・市民等の参加を求める。

(1) 「食」や「農」の魅力発信

ア 新潟の食材を利用した「オリジナルメニュー」を提供する。

イ 料理を「食べる」だけでなく、農産品等の販売・収穫体験等、様々な角度から新潟の「食」と「農」の魅力を発信する。

ウ 食のイベントを不定期に開催し、「食」と「農」の魅力を発信するとともに、期間中の会場の盛り上げにつなげる。

(2) テーマ:「新潟の水と土の恵みである食を通して、新潟と出会う3か月。」

新潟の水と土の恵みである食を通して、新潟と出会う3か月。

新潟の旬の食にふれ、長い年月をかけた水と土の共生から生まれた

この新潟の大地とともに、新潟の生産者と料理人の思いを届ける。

(3) 内容

開催月	事業名	会場	内容
7月	Live kitchen みずつち (ライブ キッチン)	km-0 niigata lab	料理人と生産者がクッキングショーを行い、新潟の食と農をPR。(7/9~7/14)
	水と土の収穫祭	メイン会場	キッチンカーと野菜販売により旬の新潟の野菜をPRする。
8月	みずつちカフェ vege&fruits de mizutsuchi (ベジ&フルーツ デ ミズツチ)	メイン会場	メイン会場前広場にキッチンカーが出店。新潟の瑞々しい夏野菜と果物を使ったかき氷などを提供する。(金・土・日・祝 10時~15時予定)
	Chef's マルシエ (シエフズ)	新潟駅	新潟の料理人一押し旬野菜を販売する。(毎週日曜日 14時~17時)
9~10月	みずつちカフェ kome de mizutsuchi (コメ デ ミズツチ)	メイン会場	メイン会場前広場にキッチンカーが出店。新潟の大地からの収穫物「米」を素材にしたカフェメニューを提供する。(金・土・日・祝 10時~15時予定)

9～10月	Chef's マルシェ (シエフズ)	メイン会場 新潟駅	新潟の料理人一押しの旬野菜を販売する。(毎週日曜日 14時～17時)
	キッズキッチンツアー kome de niigata (コメ デ ニイガタ)	新潟市内	親子で収穫体験とともに、新潟をめぐるながら、ご飯ワークショップを開催。
全会期	みずつち・食巡り	新潟市内	みずつちメニューを提供するレストランを巡るチケットの販売とマップを配布し、市内の飲食店巡りを楽しんでいただく。(7月上旬に販売開始予定)

(4) 伝統芸能等のイベント

ア 新潟の伝統芸能や和を感じる芸能演目などを発表するイベントを実施する。

○概要 新潟市の伝統芸能や和を感じる芸能演目などのステージイベント及びワークショップを実施(一部有料イベントあり)

○開催 芸術祭会期中の土・日・祝日

○会場 万代島多目的広場(屋外広場)、新潟市民芸術文化会館 ほか

	日時	タイトル	内容	出演者	会場
1	7/16 (月・祝) 13:30～	日本と海外の伝統音楽の共演 ※有料	津軽三味線とアラブの打楽器「レク」が共演するコンサート	史佳 和田啓	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂
2	8/19(日) 13:00～ 16:00	プロと高校生が魅せる民謡の底力	古町芸妓の日本舞踊と、高校生による佐渡の芸能の共演	古町芸妓 羽茂高校郷土芸能部	万代島多目的広場
3	8/26(日) 13:00～ 16:00	伝統と現代のエンターテインメントの共演	日本古来の手品・手妻とバルーンアートの共演	KYOKO FOOZY	万代島多目的広場
4	9/15(土) -17(月・祝) 11:00～ 16:00	にいがた総おどり	にいがた総おどりのサテライト会場として、出演団体のおどりを披露	にいがた総おどり出演団体	万代島多目的広場
5	9/23(日) 13:00～ 16:00	新潟伝統のリズムとストリートパフォーマンスの共演	新潟伝統の和太鼓とストリートパフォーマンスの共演	万代太鼓 華龍 Toshihiko Nakazawa	万代島多目的広場

6	9/24 (月・祝) 13:30～	新潟と佐渡の伝統文化の共演 ※有料	箏・尺八ユニットによる演奏と、佐渡の伝統芸能団体による共演	薫風之音 城腰花笠踊保存会	りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂
7	10/8 (月・祝) 11:00～ 15:00	新潟市 8 区の伝統芸能の共演	市内 8 区から伝統芸能団体が集まり、地域ならではの芸能を披露	市内の伝統芸能団体 8 団体	万代島多目的広場

イ 新潟市民の芸能団体等によるパフォーマンスやアーティストと市民によるワークショップと公演を実施する。(一部有料イベントあり)

(a) 市民パフォーマンス

○概要 伝統芸能、ダンスなどジャンルを問わず、新潟市内で活動する団体によるステージイベントを実施

(b) アートパフォーマンス

	期日 (予定)	タイトル	内容	アーティスト	会場
1	7/14(土) 【ワークショップ】 13:30～ 15:30 【リハーサル】 18:00～ 19:30 7/15(日) 【公演】 18:00～ 20:00	オーケストラ NIIGATA!	市民 100 名が自慢の音が出るものを持ち寄り、作家の出すコマンドに合わせて即興演奏を行うオーケストラ NIIGATA!を開催。併せて関連ワークショップも実施予定。	大友 良英	【ワークショップ】 NEXT21 アトリウム 【リハーサル】 万代島多目的広場 【公演】 万代島多目的広場
2	7/28(土)、 29(日)、8/1 (水)-4(土) 【ワークショップ】 初回:14:00 8/5(日) 【発表公演】 18:00～ 19:00	mizugiwa (みずぎわ)	演劇ワークショップを通じて、参加者ひとりひとりから語られた新潟での日常や水と土にまつわる記憶を作家がひとつの物語を作り、演劇という形で発表。	藤田 貴大 (マームとジブシー)	【ワークショップ】 万代市民会館、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 【発表公演】 万代島多目的広場

ウ 市内の他のイベントとも連携し、芸術祭の盛り上げにつなげる。

(5) まちあるき

ア まちあるきイベント

メイン会場とサテライト会場を結ぶエリア周辺の「水と土」や「みなとまち文化」の歴史や文化に触れる「まちあるき」を実施する。

回	日時	コース	参加費	ガイド
第1回	7/21(土) 10:00 ~ 12:30	幻の橋と島をさがして メディアシップ～萬代橋～メイン会場	1,000 円	路地連新潟
第2回	8/18(土) 10:00 ~ 12:30	川と海と川跡と砂丘をめぐって みなとぴあ～日和山～サテライト会場		
第3回	9/15(土) 10:00 ~ 12:30	天空の城と森をめざして 白山神社～日本海タワー～NSG美術館		

イ おもてなしまちあるき

新潟駅とメイン会場間を新潟の文化を楽しく学びながら移動できるまちあるきを実施

回	会期	コース	料金	ガイド
全日	7/14(土)～ 10/8(月・祝)	新潟駅 ⇒ メイン会場	500 円	新潟シティガイド

※メイン会場休館日は除く(予約制)

※1日2回実施。午前 10:30 出発 午後 1:30 出発

(6) オリジナルグッズ

オリジナルグッズの開発・選定を行い、来場者の満足度をより一層高めるとともに、芸術祭を印象深いものにしていただく。

(7) ショップ

店名:「橋、私。」

テーマ:人與人。人とこと。技術と文化。技術とデザイン。過去と未来。様々な「橋渡し」をテーマにしたショップ。

場所:メイン会場屋外広場

販売物:オリジナルグッズや、参加アーティストの関連商品、書籍等を販売する。



公式ショップ「橋、私。」店舗イメージ

6 その他主催事業

(1) 式典等

オープニング、クロージングなどのイベントを実施する。

- 内覧会 2018年7月13日(金) メイン会場・サテライト会場 ほか
- 前夜祭 " Befco ばかうけ展望室
- オープニングイベント 2018年7月14日(土) メイン会場
※オープニングイベント終了後、参加作家によるアーティストトーク(作品解説等)を開催する。
- クロージングイベント 2018年10月8日(月・祝) メイン会場 ほか

(2) スタンプラリーの実施・スタンプ台の設置

各作品の展示場所及び各区の地域拠点プロジェクトなどにスタンプ台を設置し、作品観賞に併せて楽しめるスタンプラリーを実施する。

一定の数を集めた参加者には、景品をプレゼントする。

○景品

	条 件	記念グッズ
パーフェクト賞	全スタンプ(68個)	スタンプラリーオリジナルグッズ + みずつち賞
みずつち賞	全アート作品のスタンプ(48個)	オリジナルミニタオル + 参加賞
参加賞	スタンプ34個以上(メイン会場8個は必須)	オリジナル缶バッジ



水と土の芸術祭 2018 スタンプラリーシート

7 連携事業

(1) 市内連携の取り組み

市内にある美術館・博物館等の数多くの文化施設のほか、市民団体、商店街、農業団体、事業所・企業と連携し、芸術祭全体の盛り上げを図る。関連の企画展や公演、イベントを開催していただき、芸術祭ウェブサイトやチラシ等による広報の連携を図り、一体的な情報発信を行う。

ア 他のイベントとの連携

新潟市及び他団体主催イベントなどとの広報連携

- 関連イベントのチラシ・ポスターへのロゴマークの掲載
- 水と土の文化創造都市ホームページでの関連イベント情報発信
- 関連イベント会場へのPRブースの設置 など

イ 文化施設や店舗等との連携

水と土の芸術祭会期中に、特典やサービスの提供

○ガイドブック提示による特典やサービスの提供施設

【新潟市所管施設】

いくとぴあ食花	潟東樋口記念館	潟東歴史民俗資料館
旧小澤家住宅	旧笹川家住宅	澤将監の館
しろね大凧と歴史の館	曾我・平澤記念館	中之口先人館
新潟市會津八一記念館	新潟市旧齋藤家別邸	新潟市水族館 ＜マリニピア日本海＞
新潟市美術館	新潟市歴史博物館 ＜みなとぴあ＞	新津鉄道資料館
新津美術館	マンガ・アニメ情報館	水の駅「ビュー福島潟」

(五十音順)

【民間・県営施設】

小野塚美術館	雪梁舎美術館	知足美術館
敦井美術館	新潟県立自然科学館	新潟県立万代島美術館
新潟県立植物園	にいがた文化の記憶の館	新津記念館
北方文化博物館	北方文化博物館新潟分館	巻菱湖記念時代館

(五十音順)

【サービス協賛店舗】

アーバンボックス	あかり庵	秋葉温泉 花水
亜麺坊 新潟店	大阪屋 古町本店	オリックスレンタカー 新潟駅北口店
海鮮問屋 大助 古町店	傘&レイングッズ	CAFE GEORG
喫茶マキ	キッチン やの	きものと帯 笹長
布—KIRE— 榎谷小路店	献血ルームばんだい ゆとりろ	考古堂書店
栄森酒店	佐渡廻転寿司弁慶 新潟ピア万代店	SUBWAY 新潟万代シティ店
三宮商店	サンマルクカフェ 新潟万代シティ店	上海食堂 Le・CHINOIS 【ル・シノワ】
須坂屋そば 新潟駅前店	鮭・割烹いじま	SMOKEN
世界で2番めにおいしい焼きたて メロンパンアイス万代シティ店	駄菓子屋まるご	竹徳かまぼこ株式会社
デリ&レストランピアットジョルニ	天地豊作 新潟店	ドクター可児
にいがた石山	新潟・市民映画館 シネ・ウインド	新潟市岩室観光施設 いわむろや
新潟地魚専門店 古川鮮魚	ニッポンレンタカー 新潟株式会社	hickory03travelers
福寿温泉 じよんのび館	ふくをよぶ店 かき忠	Flowers&Sweets 花マルシャン
古町糰製造所	古町柳都庵	ホテル日航新潟
堀川鮮魚本町店	町屋カフェわかば	MALAIKA 新潟店
マルコポーロ	丸屋本店	みかづき 万代店
モルゲンロート 古町店	やぶそば	湯ったり苑 (榎尾・女池・松崎)
横場精良堂	らーめん宗次	リユースきものたんす屋
Lequipe heurtebise	和 gen	和風ジェラート おかじ

(五十音順)

○パスポート提示による特典・サービス提供施設

旧小澤家住宅	新潟市旧齋藤家別邸	新潟市水族館 ＜マリニピア日本海＞
新潟市歴史博物館 ＜みなとぴあ＞	新津鉄道資料館	北方文化博物館新潟分館

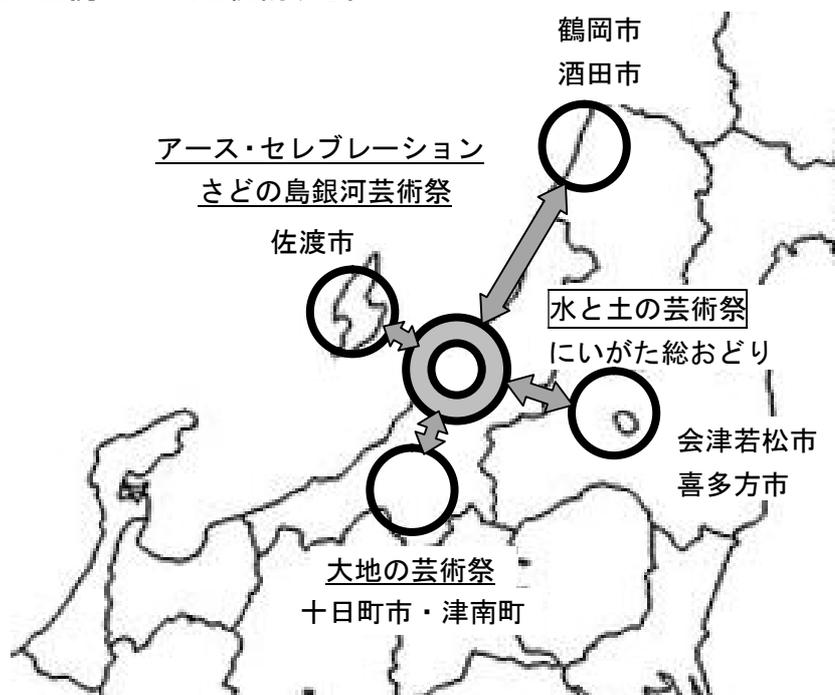
(五十音順)

(2) 広域連携の取り組み

佐渡市や鶴岡市、会津若松市など、既に広域観光として提携のある市町村と相互に協力し、誘客を図る。さらに、現美新幹線や日本遺産に認定された「火焰型土器等の遺産群」・「北前船寄港地の構成文化財」など、新潟県内の観光資源を最大限活用し、それらと連携することで、さらなる誘客と広域連携を促進させる。

特に、2018年に開催される第7回大地の芸術祭や佐渡市のアース・セレブレーションなどは、同時期に県内で開催される芸術祭であることから、更なる連携を図り、相互に人が行き来する仕組みづくりに取り組む。

また、東アジア文化都市や交流のある都市、姉妹都市・友好都市等、更には全国の芸術祭開催都市との連携についても検討する。



水と土の芸術祭

本体事業

市民プロジェクト

こどもプロジェクト

アートプロジェクト

シンポジウム

にいがた JIMAN

連携事業

市内連携

- ・文化施設、イベント、市民団体等の事業と連携した盛り上げ
- ・市内観光資源などを活用した国内外からの誘客

広域連携

- ・国内外の他都市との協力による誘客
- ・県内観光資源を活用した国内外からの誘客

IV 空間構成と輸送・交通

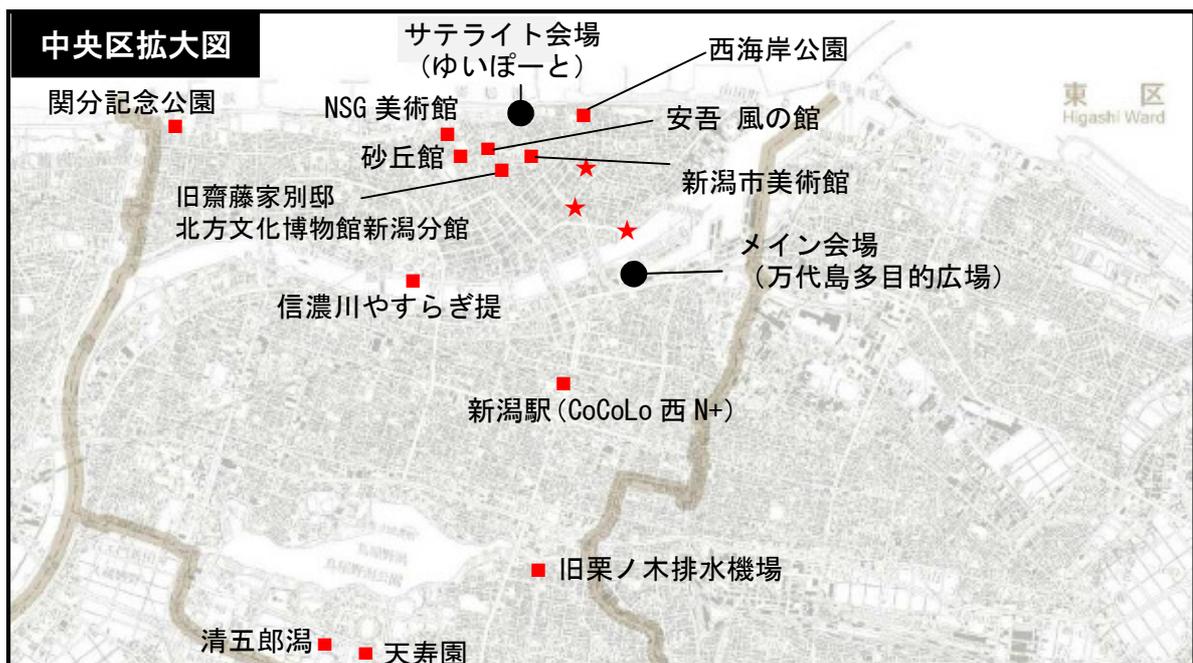
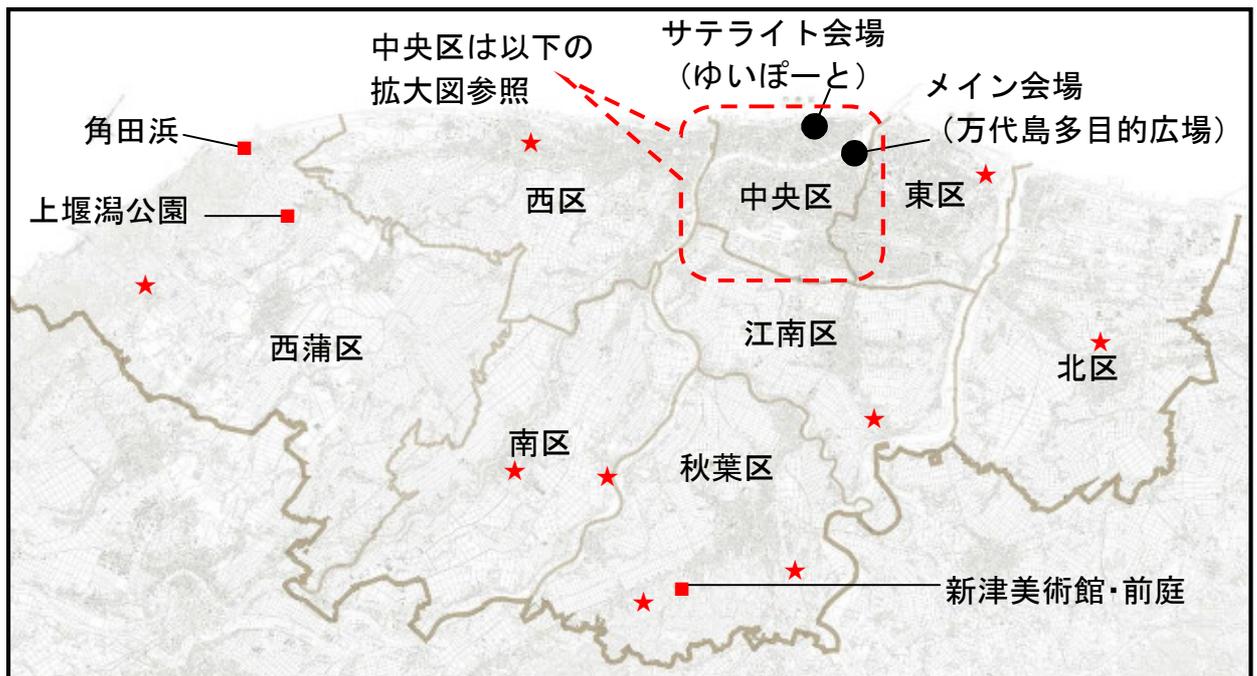
1 空間構成

(1) 作品展示エリア

「港」に関連のある「万代島多目的広場(大かま・屋外広場)」をメイン会場とし、新潟の砂丘列の頂にある「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと)」をサテライト会場とする。また、市の文化施設や既存作品設置場所において作品の展示等を展開する。

その他、市民プロジェクト及びこどもプロジェクトは各地で展開される。

★印は市民プロジェクトにおける各区の地域拠点プロジェクト



(2) メイン会場・サテライト会場に持たせる機能

ア メイン会場

- 来場者向け機能
インフォメーション、ショップ、多目的トイレ、授乳室、救護室、休憩スペース、ボランティアルーム
- 作品展示
作品展示(インスタレーション(屋外展示作品あり))
- その他
レンタサイクルステーション、シャトル便発着場 ※駐車場は近隣民間駐車場を活用

イ サテライト会場

- 来場者向け機能
インフォメーション、多目的トイレ
- 作品展示
作品展示(インスタレーション)、アーティスト・イン・レジデンスによる作品制作
- その他
駐車場、レンタサイクルステーション、シャトル便発着場

(3) インフォメーション

来訪者の利便性を向上させるため、情報発信拠点としてメイン会場等にインフォメーションを設置するほか、「地域拠点プロジェクト」により作られる各区の拠点などに簡易インフォメーションを設置する。

ア インフォメーション

- 機能
スタッフによる芸術祭の各種案内(展示会場、移動手段、イベント情報など)
パスポート(単館チケット)及びガイドブックの販売(新潟駅を除く)
イベント等の案内チラシ設置 など
- 設置場所
メイン会場(万代島多目的広場)
サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター(ゆいぽーと))
天寿園
新潟駅(CoCoLo 西 N+)
NSG 美術館

イ 簡易インフォメーション

- 機能
紙媒体による芸術祭関連の各種案内(展示会場、移動手段、イベント情報など)
イベント等の案内チラシの設置
- 設置場所
各区の市民プロジェクトの「地域拠点プロジェクト」
アートプロジェクトの屋内展示会場
市民サポーターズ情報基地(西堀ローサ)
新潟市歴史博物館みなとぴあ
NEXT21
マリニピア日本海

2 輸送・交通

(1) 基本方針

- ア 市内外からの来場者が、円滑かつ安全に各会場までアクセス可能な輸送体制を確立する。
- イ 輸送にあたっては、環境に配慮した交通手段を有効活用する。

(2) 実施概要

ア みずつちシャトル便

メイン会場とサテライト会場間を繋ぐシャトル便を運行し、来場者の利便性の向上を図る。運行に当たっては、既存の路線バスの運行ダイヤや来場者が多く見込まれる日及び時間を考慮し効率的に実施する。

(a) 運行ルート(以下のルートを一方向で循環):

- ①メイン会場～②新潟市美術館前～③サテライト会場～④NSG 美術館前～
⑤砂丘館前～⑥NEXT21 前～⑦メイン会場

(b) 料 金: 200 円/回

以下の方は無料

- ・ガイドブックを提示した方
- ・中学生以下の方(小・中学生はスタンプラリーシートの提示)
- ・障がい者手帳をお持ちの方(手帳提示)

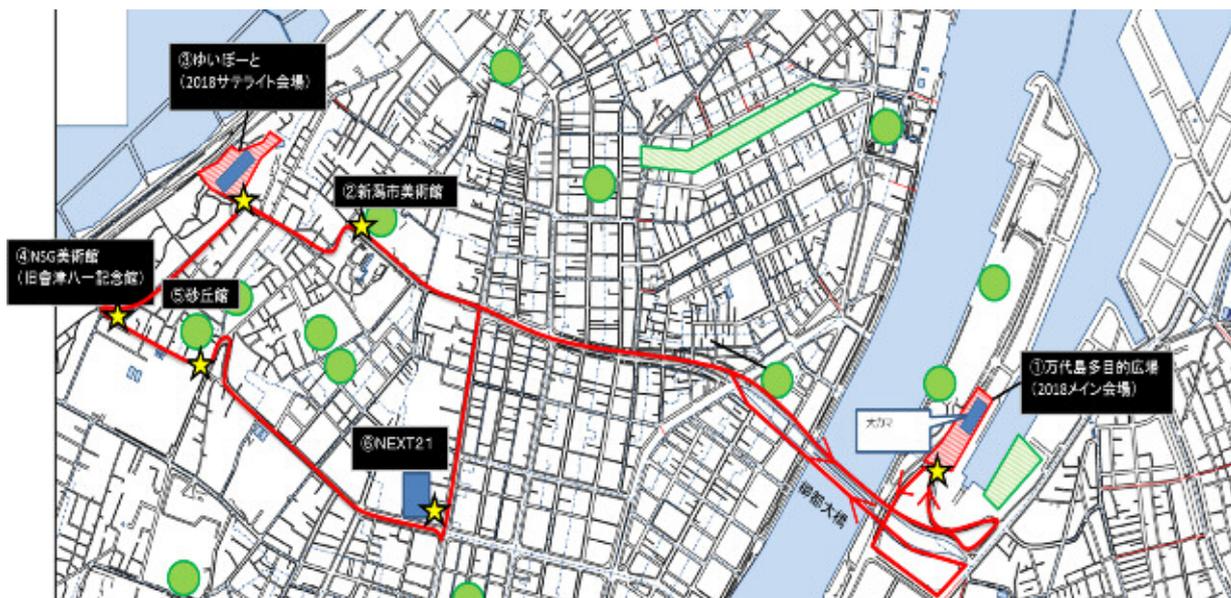
(c) 運行期間: 2018 年 7 月 13 日(金)～10 月 8 日(月・祝) 77 日間
(メイン会場の休館日を除く)

(d) 使用車両: ジャンボタクシー(9 人乗車)

(e) 運行時間: 以下のとおり

項目	運行日	運行時間(予定)	運行体制
通常日	7/13(金) ～ 10/8(月・祝) のうち繁忙日を除く	10:45～15:30	40 分サイクル・7 便/日 1 台運行
繁忙日	7/14(土)～16(月)、 7/21(土)・22(日)、 9/15(土)～17(月)、 9/22(土)～24(月)		20 分サイクル・13 便/日 2 台運行

(f) 経 路: 以下のとおり



イ 作品鑑賞バスツアー

アートの鑑賞のみではなく、新潟の「水と土」に関連したスポットや観光スポット、食や農体験など、芸術祭を多様に楽しめるツアーを催行する。

(a) 一日バスツアー

アート作品、新潟の歴史・文化を感じる名所、食の魅力を満喫できる昼食付日帰りバスツアーを6コース造成する。

期日	主な行き先	ツアー名	対象
7/22(日)	江南区	亀田郷と豪農の館を訪れるバスツアー	全年齢
8/4(土)	中央区 西区	みずつち夏休みキッズバスツアー	親子
8/18(土)	西区	水の歴史と砂丘を感じるバスツアー	全年齢
9/16(日)	北区 東区	酒と味噌蔵見学と工場夜景ツアー	
9/23(日)	西蒲区	遠藤麻理さんに行く！初秋の西蒲区魅力発見ツアー	
10/7(日)	南区	巨峰収穫体験と小須戸・月潟アート鑑賞ツアー	

(b) 半日バスツアー

鳥屋野潟エリア(旧栗ノ木排水機場、天寿園)を中心に、運行日に実施される各区の市民プロジェクトを組み合わせたツアーを造成し、来場者が気軽にアート作品と郊外の市民プロジェクトを楽しむ半日周遊ツアーを実施する。

○運行回数: 全 13 回 土曜日(午後運行)、日曜日(午前運行)

○運行内容:

期日	主な行き先
7/15(日)、9/9(日)、10/6(日)	鳥屋野潟エリア+江南区市民プロジェクト
7/28(土)、8/5(日)	鳥屋野潟エリア+西区市民プロジェクト
7/29(日)、9/15(土)	鳥屋野潟エリア+北区市民プロジェクト
8/11(土)、8/26(日)	鳥屋野潟エリア+南区市民プロジェクト

8/12(日)、9/1(土)	鳥屋野潟エリア+秋葉区市民プロジェクト
9/8(土)、9/29(土)	鳥屋野潟エリア+西蒲区市民プロジェクト

ウ レンタサイクル・まちあるき

「みなとまち新潟」の魅力を感じるおすすめコースのマップなどを作成し、自転車や徒歩での移動を推奨する。

【レンタサイクルステーション一覧】

アルモにしぼり	アルモひがしぼり	タキザワガレージ	東堀パーク 600
新潟グランドホテル	ホテルオークラ新潟	新潟市水族館 〈マリニピア日本海〉	新潟市美術館
新潟市歴史博物館 〈みなとぴあ〉	万代シルバーホテル	石宮公園地下 自転車駐車場	砂丘館
朱鷺メッセ	ホテル日航新潟	佐渡汽船	新潟県政記念館
白山公園駐車場	峰村商店	五徳屋十兵衛	今代司酒造
メイン会場	サテライト会場		

(3) 案内・誘導

ア 観光循環バスや路線バス、鉄道等の既存の交通手段を最大限活用できるよう、マップなどを用いて分かりやすい情報提供を行う(併せて、宿泊施設の情報を提供するなど、来場者にホスピタリティ^{*5}溢れる情報提供を行う)。

イ 作品等への誘導手段のひとつとして、市内各所に誘導看板を設置する。誘導看板は、車道の主要な交差点等に設置する運転者向けのもの、駐車場から作品等へ案内する歩行者向けのもの、と2種を設置する。

ウ 誘導看板は、近隣の交通状況等を勘案した上で、特に景観や自然環境、安全性に配慮したものとし、的確な誘導を行えるものとする。

エ 作品設置箇所に、作品案内板を設置する。

オ 誘導看板や作品案内板は多言語に対応するものとする。

カ 上記のほか、のぼり旗や屋外掲示物等、必要なものを適宜、許可の範囲で設置する。

^{*5} 「ホスピタリティ」→おもてなしの行動や考え方。

V 広報・誘客

1 広報

(1) 広報・誘客の基本方針

- ア 新潟開港 150 周年や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを見据えた、早期からの戦略的な取り組みによる広報・誘客
- イ わかりやすい「ことば」による伝達にもとづく広報・誘客
- ウ 費用対効果の高い展開による広報・誘客
- エ 海外・県外向けに強化した広報・誘客
- オ SNS^{*6}等、最新メディアを有効活用した広報・誘客

(2) 実施体制

広報業務全体を株式会社新潟博報堂に業務委託し、戦略的かつ効果的な広報推進を図る。

(3) 実施概要

ア 記者／ライターによる定期的な情報発信

- 専属記者による取材を芸術祭準備段階から開始し、サポーター、地域住民、作家等の関係者への取材により情報を集約し、文章化した上で情報を発信する。
- 定期的に、タイムリーな情報を発信していくことで、芸術祭の機運醸成に繋げる。

イ 広報全体の戦略(広報戦略)の策定

- 戦略的で効果的な広報展開を徹底する。
- 芸術祭のロゴ・シンボルについては、2015 年のものを更新して継続活用する。

ウ パブリシティ^{*7}

- 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミや、美術・旅行雑誌、タウン誌、フリーペーパー、Web ニュースなどのメディアに、情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。

エ ウェブサイト

- 「水と土の文化創造都市」ウェブサイトの機能のさらなる充実を図った上で、「水と土の芸術祭 2018」のページを追加し継続利用する。
 - ・早期ウェブサイト制作、運営管理
 - ・本格ウェブサイト制作、運営管理
 - ・SNS 活用(フェイスブック、ツイッター、インスタグラム)
 - ・(3)ーアと連動した情報発信



^{*6} 「SNS」→ソーシャル・ネットワーキング・サービス。フェイスブックやツイッターなど。

^{*7} 「パブリシティ」→事業などに関する情報を積極的にマスコミに提供し、マスメディアを通して報道として伝達されるよう働きかける広報活動。

オ ガイドブック

○ 制作

- ・新潟の歴史・地勢・文化(基本理念、水と土の歴史、みなとまち文化の解説等)
- ・芸術祭の内容(作品、作家紹介、イベント、出演者紹介、スケジュール等)
- ・会場へのアクセス方法(地図、交通機関、接続、主要な時刻表及び所要時間等)
- ・会場案内(会場レイアウトマップ、ステージイベント等関連イベント)
- ・食・ショップ等の案内
- ・ガイドブック特典
- ・ガイドマップ
- ・スタンプラリーシート ほか

○ 配本

県内外の各書店に配本し、販売する。

カ 図録(記録集)

アートプロジェクトをはじめ、各プロジェクトの写真や資料、記録データも含めた記録集として芸術祭の会期終了後に編集・制作し、販売する。

キ チラシ・ポスター

○ 制作

- ・簡易チラシ
- ・早期告知チラシ
- ・本格チラシ
- ・市民プロジェクトチラシ
- ・こどもプロジェクトチラシ
- ・シンポジウム、座談会チラシ
- ・にいがた JIMAN チラシ
- ・ポスター
- ・有料広告紙面
- ・大型ポスター

○ 配送

全国の美術館、博物館、文化関連機関・施設、観光施設、大学及び市内の学校などイベントの内容に合わせた効果的な施設等に配送し、芸術祭の情報を発信する。

ク 雑誌広告

- 全国誌 3誌以上、地方誌 3誌以上
- 芸術祭開催 1ヶ月前頃に掲載する。

ケ テレビCM

- テレビコマーシャル(15秒)を2種類作成し、新潟県内テレビ(民放4局)で放送する。
- 芸術祭会期約1ヶ月前の2018年6月初頭から会期中旬頃での期間、適切な枠を調整・選定する。

コ プレゼンテーションイベント

- プレス発表会等のイベントを、具体的な広報イメージを形成し発信する機会として捉え、広報戦略の観点から企画・演出する。

- プレス発表会は 2 回以上(新潟、東京各 1 回以上)、芸術祭の情報集約完了後、効果的な時期に行う。
- 前夜祭、オープニングイベント、クロージングイベント等のイベントを広報の一環として取り扱う。

サ シティドレッシング・大型掲示物

芸術祭の機運醸成や開催の周知のため、メイン会場周辺・新潟駅などを PR 媒体により、飾り立てる。

- 街路灯及び新潟駅通路へのバナー
- 新潟駅西口階段ケコミサイン
- 新潟駅および県内主要駅構内のデジタルサイネージ
- JR 電車内の PR 映像
- 市内中心部ランドマーク施設への装飾
- JR 東日本首都圏駅大型ポスター

シ 多言語対応

海外向けの広報や誘客に向け、以下とおり多言語対応する。

- ウェブサイト: サイト内の翻訳機能で対応及び作品解説等は翻訳データ掲載
- ガイドブック: 英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語対応 ※主要部分のみ
- 作品記録集: 英語対応
- 簡易チラシ: 英語対応
- 早期告知チラシ: 英語対応
- 本格チラシ: 英語対応
- 外国語マップ: 英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語対応

(4) 記録

公式カメラマン(実行委員会で契約)及び(3)ーアの記者／ライターにより、作品制作状況等の開催に至るまでの過程、展示状況を写真や映像等で記録し、実施報告書等の記録集の発行やホームページ等による情報発信に使用する。

(5) 広報スケジュール

2017 年 11 月	プレス発表会(期日:11/30 会場:新潟市美術館)、早期告知チラシ、特設ウェブサイト開設、専属ライターによる取材・情報発信
2018 年 4 月	プレス発表会(期日:4/24 会場:SYD ホール(渋谷区千駄ヶ谷))
2018 年 5 月	本格チラシ、ポスター
2018 年 6 月	シティドレッシング・大型掲示物、テレビ CM、雑誌広告 など
2018 年 7 月	前夜祭(7/13)、オープニングイベント(7/14)
2018 年 10 月	クロージングイベント(10/8)
2018 年 12 月	作品記録集

2 誘客活動

(1) 国内向け誘客

- ア 旅行商品の造成に向け、旅行業者、旅行代理店に芸術祭を組み入れた旅行商品を企画・提案
- イ 市内のイベントや観光施設、食の魅力、アース・セレブレーション(佐渡市)、大地の芸術祭(十日町市・津南町)などと連携したコースを開発
- ウ 新潟観光コンベンション協会等と連携した旅行業者等へのセールス
- エ 周辺観光施設・宿泊施設等とタイアップし、市内の観光資源の活用も促進する。
- オ 美術系大学や美術関係団体、新潟市サポーターズ倶楽部、新潟県人会、首都圏の団体や事業所などへの誘客
- カ 各種コンベンションや新潟まつり、日本海夕日コンサート、にいがた総おどり、食の陣などのイベント参加者や期間中に新潟市を訪れる宿泊者、ビジネス客等の獲得
- キ 市内の宿泊施設と連携し、芸術祭特別宿泊プラン(パスポート付・ガイドブック付)を造成

ホテル名	所在地	宿泊プラン
ラマダホテル新潟	中央区	ガイドブック＋パスポート付
新潟東映ホテル	中央区	パスポート付
万代シルバーホテル	中央区	パスポート付
ANA クラウンプラザホテル新潟	中央区	パスポート付
ホテル日航新潟	中央区	パスポート付
ホテルオークラ新潟	中央区	ガイドブック＋パスポート付
新潟グランドホテル	中央区	ガイドブック付
ホテルイタリア軒	中央区	ガイドブック＋パスポート付
岩室温泉 ゆもとや	西蒲区	ガイドブック＋パスポート付
高志の宿 高島屋	西蒲区	ガイドブック付／パスポート付
木のぬくもりの宿 濱松屋	西蒲区	ガイドブック＋パスポート付
割烹旅館 松屋	西蒲区	ガイドブック付

(2) 海外向け誘客

- ア 新潟観光コンベンション協会等と連携した旅行業者等へのセールス

VI 観覧料等

1 パスポート・単館チケットの販売

芸術祭の作品観覧者と一般利用者が明確に区別できる屋内会場を対象に、アートプロジェクトの一部を有料観覧とする。芸術祭の有料観覧会場全てを観覧できるパスポートを販売するとともに、会場ごとに観覧できる単館チケットも販売する。料金設定については、多くの方から来場いただくため、観覧しやすい料金設定にし、中学生以下の方と障がい者の方等の観覧料は無料、高齢者・学生を低廉な価格とする。

(1) 観覧料を徴収する会場

- 大かま 万代島多目的広場(屋内)
- NSG 美術館
- 天寿園(屋内会場)

(2) 観覧料

(単位:円)

種類	区分	一般	学生 ^{※1} 65歳以上 ^{※2}
パスポート	当日	1,500	1,000
	前売	1,200	800
単館チケット	大かま 万代島多目的広場(屋内)	1,000	700
	NSG 美術館	700	500
	天寿園(屋内会場)	300	200

以下に該当する場合は無料でパスポートを配布する。

- 中学生以下
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを提示した方及びその介助者1名

※1 学生:高校生、大学生、短大生、大学院生、専門学校生

※2 利用日時点の年齢

(3) 発売日・方法

- 先行発売:4月25日(水) セブンチケット、チケットぴあ、芸術祭事務局、各区役所、新潟市東京事務所
- 一般発売:5月10日(木) 上記に加え、NSG美術館、天寿園、砂丘館、旧齋藤家別邸、北方文化博物館新潟分館、新潟市美術館など芸術祭作品展示会場、市内文化施設、県内イオン、プレイガイド など

※単館チケットについては開幕日から有料会場3か所及び事務局で販売

(4) パスポート特典

ア パスポートの提示による特典

施設名	特典
旧齋藤家別邸	団体料金で入館可
北方文化博物館新潟分館	団体料金で入館可

イ 有料会場 3 か所のスタンプを押したパスポートの提示による特典

施設名	特典
旧小澤家住宅	常設展 無料
新潟市水族館<マリニピア日本海>	入場無料
新潟市歴史博物館<みなとぴあ>	常設展 無料
新津鉄道資料館	観覧料 無料

※ パスポート1枚につき、記名した1名様1回限り有効

ただし、北方文化博物館新潟分館のみ、有効期限内何度でも使用可

※ 他の割引サービスとの併用不可

※ 有効期限:ア 2018年7月14日-10月8日

イ 2018年7月14日-2019年3月31日

2 ガイドブックの販売

ガイドブックは、芸術祭の各プロジェクト、新潟の地勢的な成立ち、おすすめの芸術祭周遊コースなどを盛り込むほか、スタンプラリーや文化施設等の入館料割引や飲食店での料金割引等のサービス特典付けて販売する。

仕様	発売日(予定)	価格	制作部数	販売方法
A5版/カラー/148P ※別冊ガイドマップ 綴じ込み	6/26(火)	1,000円 (税込)	10,000部	インフォメーション 公式ショップ 県内外の書店 インターネット等

【ガイドブック特典】

○シャトル便乗車料金無料

○市内・県内連携施設、サービス協賛店舗での割引等のサービス

○にいがたレンタサイクルの利用料金 100円引き(3時間分/1回のみ)

VII 実施・運営体制

(1) 基本方針

市民主体・地域主導の芸術祭とするため市民の皆様をはじめ、市議会、自治協議会、コミュニティ協議会等からご意見をいただきながら事業を実施する。

(2) 組織

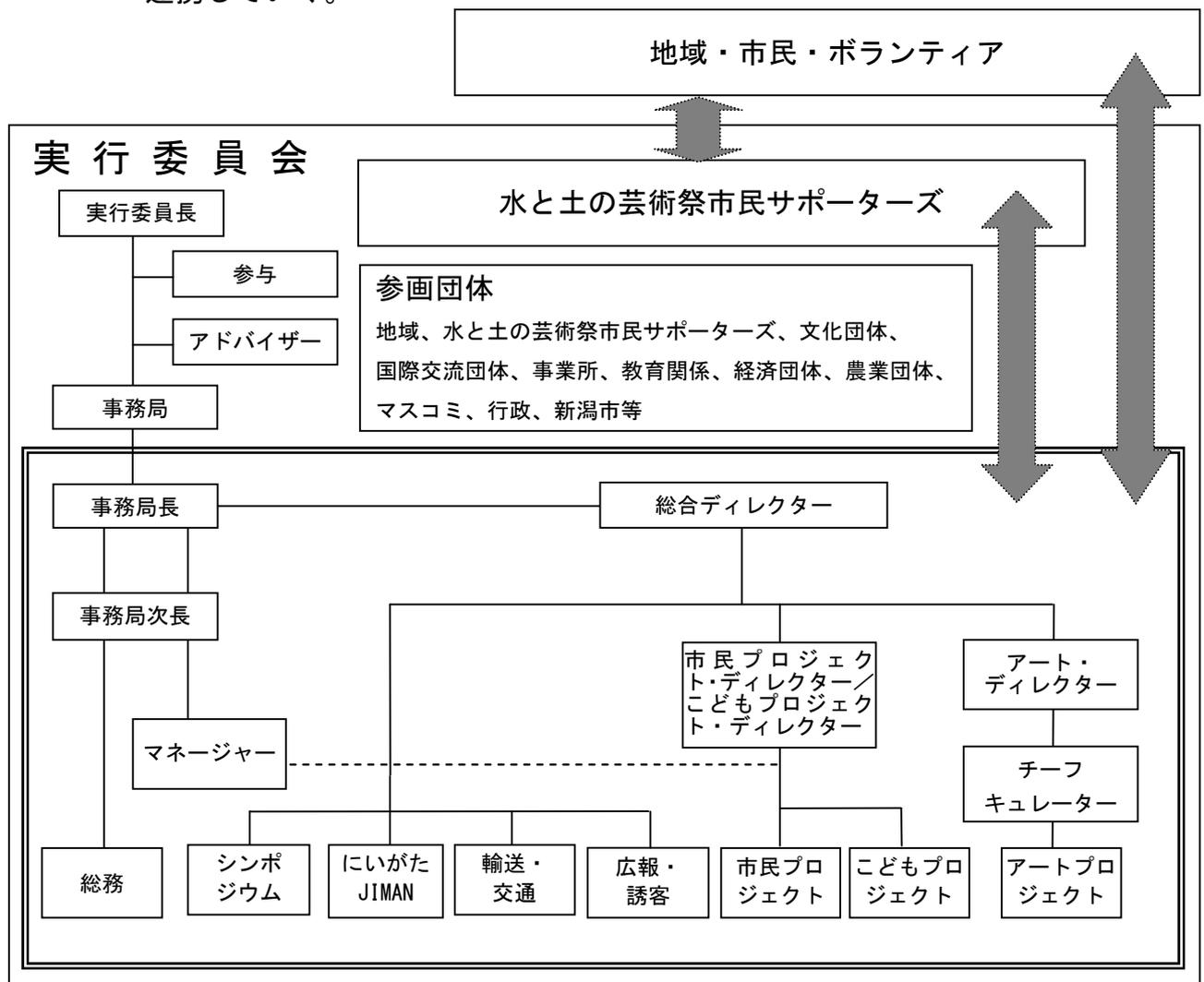
- ・様々な機関・団体から参画いただき、実行委員会を組織する。
- ・実行委員会には、参与、アドバイザー、総合ディレクター、ディレクターを置く。
- ・事務局は、新潟市文化創造推進課が担う。総合ディレクターの監督のもと、個々の事業の連携を図る。
- ・区役所との連携を密にし、各種情報提供や協力依頼を行う。

(3) 水と土の芸術祭市民サポーターズ

水と土の芸術祭市民サポーターズの企画・運営等への参画が重要であることから、事業を進めるにあたり、強力に連携する。

(4) ボランティア

新潟市民を中心にボランティアを募り、作品制作補助や会場案内等の運営面で連携していく。



水と土の芸術祭 2018 実行委員会 会則

(名称)

第1条 本会は、水と土の芸術祭 2018 実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、水と土の芸術祭 2018（以下「芸術祭」という。）を円滑に開催するために必要な事項を審議し、実行し総括することを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 芸術祭の開催及びこれに関する事業
- (2) その他、第2条に掲げる目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 実行委員会は、別表の団体等をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会には、次の各号に掲げる役員を置く。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 若干名
- (3) 監事 2名

(役員を選任)

第6条 役員は、実行委員会の中から互選により選任する。

2 監事は、実行委員会の外部から選任できるものとする。

(役員職務)

第7条 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

2 副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長が不在のときは、その職務を代行する。

3 監事は、会計及び業務を監査する。

(会議)

第8条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、実行委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 芸術祭の計画及び運営に関すること。
- (3) その他重要な事項に関すること。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 実行委員長は、必要があると認められるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(参与)

第9条 実行委員会に参与を置くことができる。

2 参与は、芸術祭の基本的な方向性を導引する。

3 参与は、実行委員長が委嘱する。

(総合ディレクター)

第10条 実行委員会に総合ディレクターを置くことができる。

2 総合ディレクターは、次条に掲げるディレクターを統括する。

3 総合ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(ディレクター)

第11条 実行委員会にディレクターを置くことができる。

- 2 ディレクターは、総合ディレクターの指示に従い、専門的知識を活かし、担当する部門の企画・運営を指導・推進する。
- 3 ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(アドバイザー)

第12条 実行委員会にはアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、実行委員長の求めに応じ、実行委員会に対して助言を行う。
- 3 アドバイザーは、実行委員長が委嘱する。

(部会)

第13条 実行委員会に部会を置くことができる。

- 2 部会は、それぞれの専門分野等において、事業を推進するものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、部会に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(専決処分)

第14条 実行委員長は、第8条第2項に掲げる事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができるものとする。

- 2 実行委員長は、第1項の規定により専決処分したときには、次の会議でこれを報告しなければならない。

(解散)

第15条 実行委員会は、その決議により解散することができる。

- 2 実行委員会が解散するとき有する残余財産は、新潟市に帰属するものとする。

(事務局)

第16条 実行委員会の事務を処理するため、新潟市文化スポーツ部文化創造推進課内に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置く。
- 3 前2項に定めるもののほか、事務局に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(会計)

第17条 実行委員会の経費は、負担金、寄附・協賛金、その他の収入をもって、これに充てる。

(会計年度)

第18条 実行委員会の会計年度は、初年度は実行委員会設立の日から平成29年3月31日までとし、次年度以降、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第19条 この会則に定めるもののほか、必要な事項については実行委員長がこれを定める。

附 則

この会則は、平成29年1月26日から施行する。

水と土の芸術祭 2018 実行委員会 構成団体等一覧

区分	団体等名称	区分	団体等名称
市民・地域	水と土の芸術祭市民サポーターズ	交通関係	東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社
	北区		新潟交通株式会社
	東区	学校・教育関係	新潟大学
	中央区		新潟市小学校長会
	江南区		新潟市中学校長会
	秋葉区		はばたけ 21 の会
	南区	各種団体	(一社) 日本旅行業協会関東支部 関東支部新潟県地区委員会
	西区		新潟シティホテル連絡協議会
	西蒲区		新潟市旅館ホテル協同組合
	新潟市漆器同業組合		
農業団体	新潟県土地改良事業団体連合会		(公社) 新潟県観光協会
	亀田郷土地改良区		(公財) 新潟観光コンベンション協会
	西蒲原土地改良区		(公財) 新潟市芸術文化振興財団
	白根郷土地改良区		(公財) 新潟市国際交流協会
	新津郷土地改良区		にいがた食の陣実行委員会
	新潟県農業協同組合中央会		NPO法人まちづくり学校
	全国農業協同組合連合会新潟県本部		NPO法人新潟水辺の会
	新潟みらい農業協同組合		認定NPO法人新潟NPO協会
	新潟市農業協同組合		アートキャンプ新潟
	新津さつき農業協同組合		新潟市食文化創造都市推進会議
	越後中央農業協同組合		志民委員会 N・Visionプロジェクト
商工・経済団体	新潟漁業協同組合		(株) 新潟日报社
	新潟商工会議所	マスコミ	
	亀田商工会議所	行政機関	農林水産省北陸農政局
	新津商工会議所		国土交通省北陸信越運輸局
	新潟県商工会連合会		国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所
	新潟経済同友会		国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所
	新潟市商店街連盟		国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所
	一般社団法人 新潟青年会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
	一般社団法人 新津青年会議所		新潟県新潟地域振興局
	一般社団法人 白根青年会議所		新潟市
	一般社団法人 にいがた北青年会議所		新潟市教育委員会

計 62 団体

VIII スケジュール

	2017年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2018年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2019年 1月～	
全体	基本計画作成	実施計画作成				芸術祭開催				
		市民意見聴取		市民意見聴取						
		開催準備								
	設立 総会	実行委員会による事業推進							実績報告／総括	
						パスポート・ガイドブック販売				
市民プロジェクト				公募／審査			実施			
アートプロジェクト	作品展示候補地調査									
		作家交渉／準備		準備	作品制作		作品展示			
子どもプロジェクト		コーディネーター組織化		実施準備			実施			
シンポジウム		内容・出演者等の調整／プレシンポジウム					実施			
にいがたJIMAN		企画・調整・準備					実施			
広報		ホームページによる情報発信								
			事業周知宣伝(プレスリリース等)							
		早々期広報		印刷物・各種メディアによるPR						
			誘客・セールス							
								記録集作成		

IX 収支計画

※2018/7/6 現在

【 収 入 】

(単位：千円)

区 分	平成 28 年度 決算	平成 29 年度 決算	平成 30 年度 予算	繰越金重複分	合 計
新潟市負担金	8,000	30,000	185,000	0	223,000
寄附・協賛金	0	1,074	6,926	0	8,000
助成金	0	0	1,500	0	1,500
各種販売収入	0	280	36,720	0	37,000
その他	0	2	498	0	500
前年度繰越金	0	7,933	25,772	△33,705	0
合 計	8,000	39,289	256,416	△33,705	270,000

【 支 出 】

(単位：千円)

区 分	平成 28 年度 決算	平成 29 年度 決算	平成 30 年度 予算	繰越金重複分	合 計
市民プロジェクト	0	422	44,578	0	45,000
こどもプロジェクト	0	181	6,819	0	7,000
アートプロジェクト	0	0	85,000	0	85,000
シンポジウム	0	126	1,874	0	2,000
にいがた JIMAN	0	0	16,000	0	16,000
主催イベント	0	0	3,000	0	3,000
広報費	0	4,660	57,340	0	62,000
運営活動費	67	8,128	41,805	0	50,000
翌年度繰越金	7,933	25,772	0	△33,705	0
合 計	8,000	39,289	256,416	△33,705	270,000



水と土の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018